

東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所
「子どもの生活と学びに関する親子調査」2015-23

子どもの**幸せ実感**

🍀 調査結果からわかること 🍀

2024年2月29日(木)

ベネッセ教育総合研究所





●本資料の目的

子どもの「幸せ実感」にかかわる状況や、「幸せ実感」に関連する要因を明らかにすることで、子どもたちの健やかな成長をもたらす環境のあり方について検討するための参考にする。

●本資料の内容

調査概要【p.3】

子どもの「幸せ実感」に関連する要因【p.4】

調査結果まとめ【p.5】

1. 子どもの「幸せ実感」の実態【p.6】

- ①今と将来の幸せ（全体、学年比較）【p.6】
- ③「今の幸せ」と「将来の幸せ」の関連【p.8】
- ⑤幸せ実感-成績による違い【p.10】
- ⑦幸せ実感-居住地域による違い【p.12】

- ②今と将来の幸せ（経年比較）【p.7】
- ④幸せ実感-性による違い【p.9】
- ⑥幸せ実感-世帯収入による違い【p.11】
- ⑧幸せ実感の個人変化【p.13】

2. 保護者と子どもの関連【p.14】

- ①保護者の今と将来の幸せ（経年比較）【p.14】
- ③保護者と子どもの幸せ実感の関連（時系列分析）【p.16】

- ②保護者と子どもの幸せ実感の相関【p.15】

3. 満足度との関連【p.17】

- ①自分や人間関係の満足度【p.17】
- ③自分や人間関係の満足度と幸せ実感の関連（2）【p.19】

- ②自分や人間関係の満足度と幸せ実感の関連（1）【p.18】

4. 子どもの「幸せ実感」に関連する要因の検討【p.20】

- ①母親との会話（経年比較）【p.20】
- ③父親との会話（経年比較）【p.22】
- ⑤保護者の教育的な働きかけ（経年比較）【p.24】
- ⑦学校生活の状況（経年比較）【p.26】
- ⑨友だち関係の状況（経年比較）【p.28】
- ⑪学びの状況（経年比較）【p.30】
- ⑬自己に関する認識（経年比較）【p.32】
- ⑮将来に関する意識（経年比較）【p.34】
- ⑰社会に対する意識（経年比較）【p.36】
- ⑲生活時間（経年比較）【p.38】

- ②母親との会話と幸せ実感の関連【p.21】
- ④父親との会話と幸せ実感の関連【p.23】
- ⑥保護者の教育的な働きかけと幸せ実感の関連【p.25】
- ⑧学校生活の状況と幸せ実感の関連【p.27】
- ⑩友だち関係の状況と幸せ実感の関連【p.29】
- ⑫学びの状況と幸せ実感の関連【p.31】
- ⑭自己に関する認識と幸せ実感の関連【p.33】
- ⑯将来に関する意識と幸せ実感の関連【p.35】
- ⑱社会に対する意識と幸せ実感の関連【p.37】
- ⑳幸せ実感と生活時間の関連【p.39】

5. 子どもの「幸せ実感」の規定要因分析【p.40】

- ①子どもの「幸せ実感」の規定要因分析【p.40】
- 【参考】重回帰分析の結果【p.41】

- 【参考】重回帰分析の変数の説明【p.42】

● 使用したデータ

「子どもの生活と学びに関する親子調査」2015～23年（東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所による共同実施）。このレポートでは、コロナ禍の前後が比較できる2017年、20年、23年のデータを中心に分析した。

● 子どもの生活と学びに関する親子調査 詳細は <https://berd.benesse.jp/special/childedu/>

【調査テーマ】子どもの生活と学習に関する意識と実態（子ども調査）/保護者の子育て・教育に関する意識と実態（保護者調査）……同一の親子を対象に2015年から継続して追跡する縦断調査

【調査時期】各年7～9月

【調査方法】調査依頼は各回とも郵送で実施、回収は2015年郵送・WEB併用、16～20年郵送、21年郵送・WEB併用、22～23年WEBによる

【調査対象】各回とも約2万組の調査モニターに協力を依頼、発送数・回収数・回収率は以下の通り

	全体			小1～3生			小4～6生			中学生			高校生		
	発送数	回収数	回収率	発送数	回収数	回収率	発送数	回収数	回収率	発送数	回収数	回収率	発送数	回収数	回収率
2015年	21,569	16,574	76.8	5,504	4,690	85.2	5,080	3,950	77.8	5,379	4,051	75.3	5,606	3,883	69.2
2016年	21,485	15,849	73.8	5,617	4,915	87.5	5,234	3,797	72.5	5,225	3,706	70.9	5,409	3,425	63.3
2017年	19,136	15,307	80.0	5,700	5,167	90.6	4,662	3,643	78.1	4,312	3,311	76.8	4,462	3,186	71.4
2018年	18,217	14,424	79.2	5,408	4,928	91.1	4,634	3,616	78.0	3,977	2,967	74.6	4,198	2,913	69.4
2019年	20,056	15,311	76.3	5,879	5,175	88.0	5,251	4,071	77.5	4,497	3,168	70.4	4,429	2,897	65.4
2020年	20,413	15,656	76.7	5,921	5,127	86.6	5,639	4,407	78.2	4,595	3,323	72.3	4,258	2,799	65.7
2021年	20,471	15,596	76.2	5,829	5,066	86.9	5,704	4,430	77.7	4,812	3,432	71.3	4,126	2,668	64.7
2022年	20,951	13,398	63.9	5,844	4,716	80.7	5,737	3,664	63.9	5,058	2,922	57.8	4,312	2,096	48.6
2023年	21,525	13,201	61.3	5,743	4,583	79.8	5,869	3,489	59.4	5,462	3,070	56.2	4,451	2,059	46.3

※学校段階により回収数に偏りがあるため、全体の分析を行うときは偏りを是正するために各学校段階が同じ重みになるように重みづけを行った。



● 分析の背景—ウェルビーイングを重視する政策の流れ

OECD（経済開発協力機構）は「Education2030」のなかで、これからの教育が果たすべき目標として「個人と集団のウェルビーイングの実現」を掲げています。また、2023年6月に閣議決定された「第4期教育振興基本計画」では、「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が教育政策の方向性の一つに示されました。そのような背景を踏まえて私たちは、子どもの「幸せ実感」——「今、幸せ」「将来、幸せになれる」と感じているか——に着目した分析を行いました。

● 子どもの「幸せ実感」の実態—8～9割が幸せを実感しているが、経年ではわずかに低下傾向

小4～6生の約9割、中高生の約8割が「自分は今、幸せだ」「自分は将来、幸せになれる」を肯定しています【p.6】。しかし、2017年→20年→23年の変化では、その割合がわずかに低下していました【p.7】。子どもの「幸せ実感」は、性【p.9】や居住地（人口規模）【p.12】による違いはみられませんでした。成績【p.10】や家庭の世帯収入【p.11】による違いがみられました。ただし、成績や世帯収入の効果は重回帰分析の結果【p.40】ではみられず、直接的な効果ではないようです。成績がよい子どもは学校生活が充実していること、世帯収入が高い保護者は子どもに寄り添うような働きかけをしていることなどが、違いを生み出しているのかもしれませんが。パネル調査の特徴を生かして同じ子どもを6年間追跡したところ、小→中→高と成長するにつれて、3割の子どもの「幸せ実感」が低下することがわかりました【p.13】。成長とともに幸せ実感が低下することは、改善すべき課題といえそうです。

● 子どもの「幸せ実感」に関連する要因—保護者や友だちとの関係、学校生活、学び、自己認識などが関連

- 保護者の影響については、保護者の幸せ実感【p.15】や子どもに寄り添う働きかけ【p.25】などが子どもの「幸せ実感」に関連していました。保護者自身の状況や子どもとのかかわりが、子どもの幸せには重要です。
- 学校生活の状況【p.27】については、授業の楽しさ、先生との安定した関係、クラスや学校への愛着などが、幸せ実感に関連しています。こうした充実した学校生活を築くことは、子どもの「幸せ実感」の向上に効果的といえます。
- 友だち関係の状況【p.29】については、友だちとポジティブな関係を築いている子どもは幸せを実感する一方で、ネガティブな意識が強い子どもは幸せ実感が低い傾向にありました。安定した友だち関係を築くことも、幸せの実現には重要です。
- 学びの状況【p.31】では、勉強が好きで勉強の工夫をしている子どもは幸せを実感していますが、学習意欲が低く、勉強方法がわからない子どもは幸せ実感が低い傾向がありました。学習活動の充実も、重要な要素です。
- 自己に関する認識【p.33】では、自信、粘りづよさ、挑戦心など、自己に関する意識も幸せ実感と関連しています。いわゆる非認知能力といわれる資質・能力を高めていくことも、幸せ実感を向上させるのに有効だと考えられます。

以上の要因のほかにも、将来に関する意識【p.35】、社会に対する意識【p.37】、生活時間【p.39】など、さまざまな要因と幸せ実感に関連がみられました。このように、子どもの「幸せ実感」にはさまざまな要因が複合的に関連しています。今回の分析をひとつのきっかけにして、子どもやその保護者が幸せと感じられる社会を実現するためにできることを、多くの方々とともに考えていきたいと思います。



保護者や友だちとの関係、学校生活、学び、自己認識など多くの要因が幸せ実感と関連

子どもの「幸せ実感」の実態（主な結果）

- 小4～6生の約9割、中高生の約8割が「自分は今、幸せだ」「自分は将来、幸せになれる」を肯定している【p.6】
- 2017年→20年→23年の変化では、「自分は今、幸せだ」「自分は将来、幸せになれる」の肯定率がわずかに低下している【p.7】
- 子どもの「幸せ実感」は、性や居住地域（人口規模）による違いはみられないが、成績や世帯収入による違いがみられる【p.9～12】
ただし、成績や世帯収入の効果は、重回帰分析の結果ではみられなかった【p.40】
- 同じ子どもを6年間追跡したところ、小→中→高と成長するにつれて、3割の子どもの「幸せ実感」が低下していた【p.13】

保護者と子どもの相関

- 幸せ実感が高い保護者の子どもは、幸せ実感が高い【p.15】
- 家族との関係の満足度と幸せ実感の関連は、他の満足度と比べて相対的に強い【p.18】

保護者の働きかけとの関連

- 父母とよく会話している子どもは幸せ実感が高い【p.21、23】
- 保護者から寄り添うような働きかけを受けている子どもは幸せ実感が高い【p.25】

学校生活の状況

- 学校生活が充実している子どもほど、幸せ実感が高い【p.27】

友だち関係の状況

- 友だち関係が良好な子どもほど、幸せ実感が高い【p.29】

学びの状況

- 学びにポジティブな意識・行動の子どもほど、幸せ実感が高い【p.31】

自己に関する認識

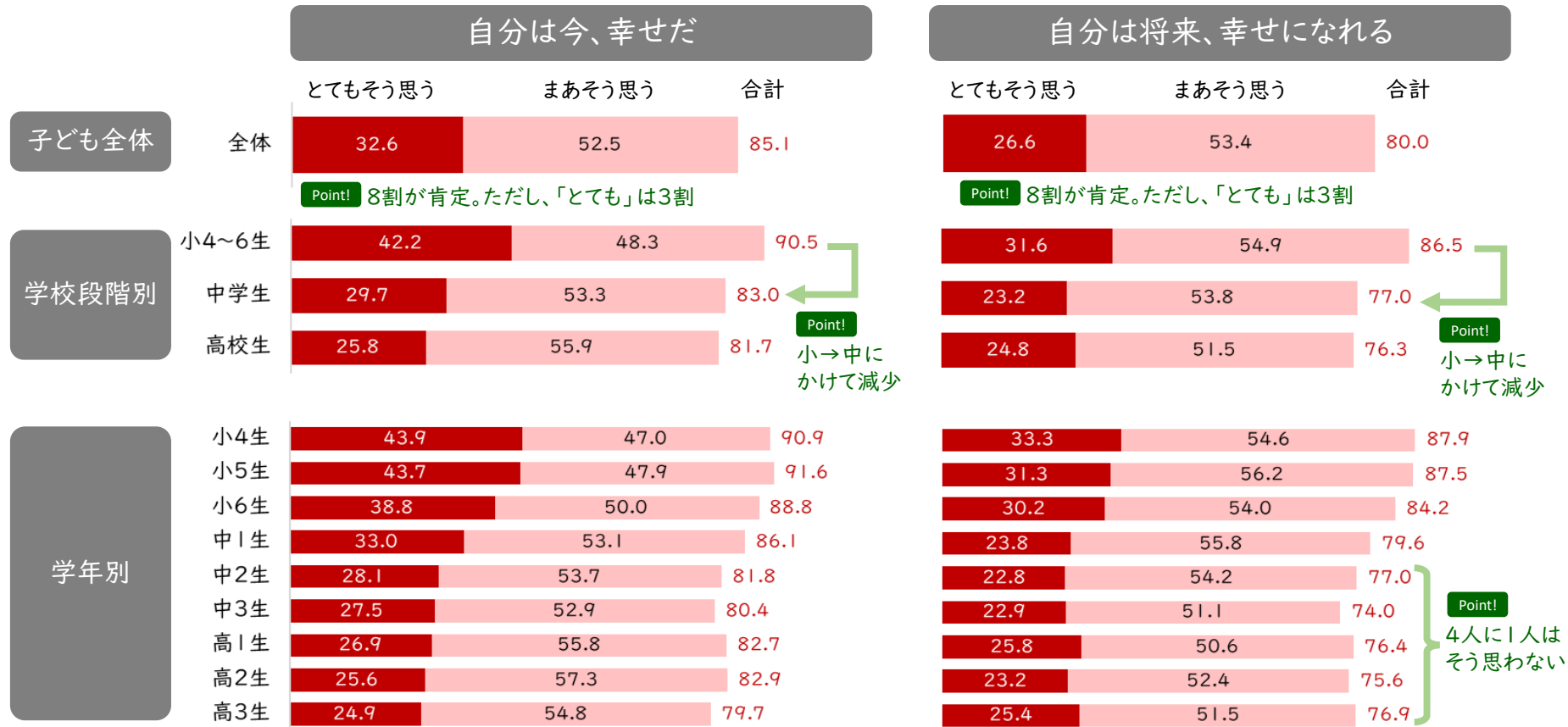
- 肯定的な自己認識を持つ子どもほど、幸せ実感が高い【p.33】



①今と将来の幸せ（全体、学年比較）

8～9割の子どもが「自分は今、幸せだ」「自分は将来、幸せになれる」を肯定

●今と将来の幸せ（学校段階別、学年別）【2023年データ】（%）



*「あなたは、次のことについてどう思いますか」という設問の回答（%）。「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」は図から省略した。
 *小4～高3生の子どもの回答。子ども全体の数値は、小4～6生：中学生：高校生＝1：1：1になるように重みづけを行った。
 *東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2023年。



②今と将来の幸せ（経年比較）

「自分は今、幸せだ」の「とてもそう思う」は、6年間で6.1ポイント減少

●今と将来の幸せ（経年比較）【2017・20・23年データ】（%）

自分は今、幸せだ

とてもそう思う まあそう思う 合計

子ども全体



Point! 「とても」が17年→23年で6.1ポイント減少

小4～6生



Point! 「とても」が17年→23年で9.8ポイント減少

中学生



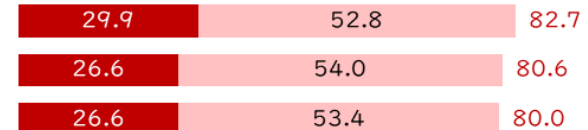
Point! 「とても」が17年→23年で8.1ポイント減少

高校生

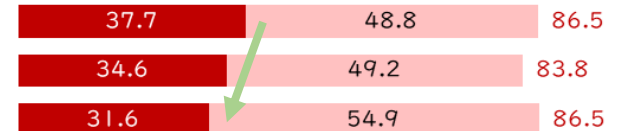


自分は将来、幸せになれる

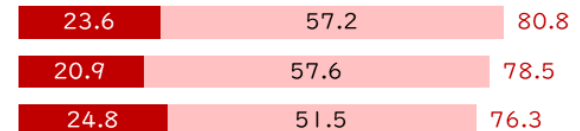
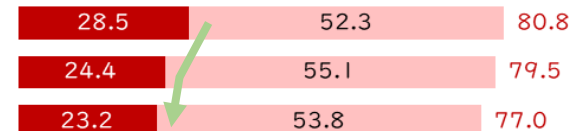
とてもそう思う まあそう思う 合計



Point! 「とても」が17年→23年で6.1ポイント減少



Point! 「とても」が17年→23年で5.3ポイント減少



*「あなたは、次のことについてどう思いますか」という設問の回答（%）。「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」は図から省略した。

*小4～高3生の子どもの回答。全体の数値は、小4～6生：中学生：高校生＝1：1：1になるように重みづけを行った。

*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2017・20・23年。



③「今の幸せ」と「将来の幸せ」の関連

「今、幸せだ」と「将来、幸せになれる」には相関がみられる

●今と将来の幸せ【2023年データ】 (%)

子ども全体

自分は今、幸せだ

自分は将来、幸せになれる

	4点	3点	2点	1点
	とてもそう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
4点	20.0	5.7	0.7	0.2
3点	10.4	39.0	3.5	0.4
2点	1.9	7.3	6.8	0.8
1点	0.3	0.5	0.8	1.7

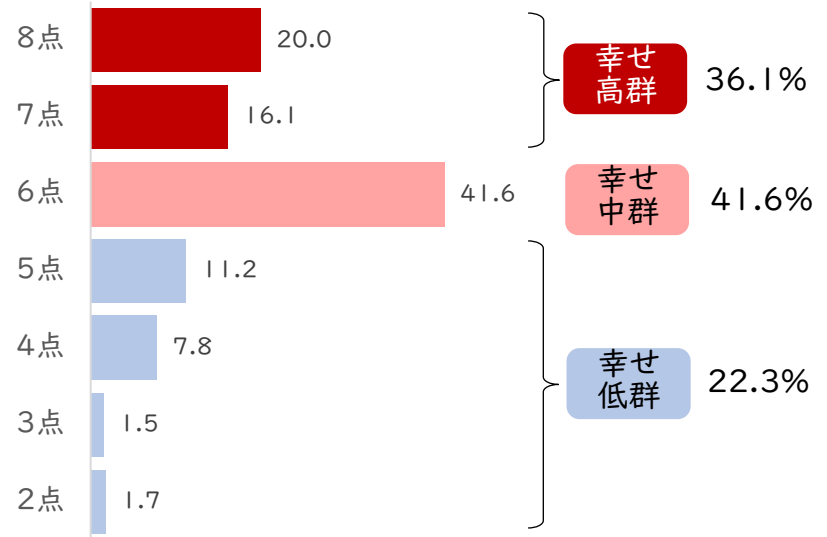
「今⇔将来」相関係数 0.591

●幸せ実感得点【2023年データ】 (%)

子ども全体

幸せ実感得点

幸せ実感3群



幸せ実感得点(平均) 6.18点



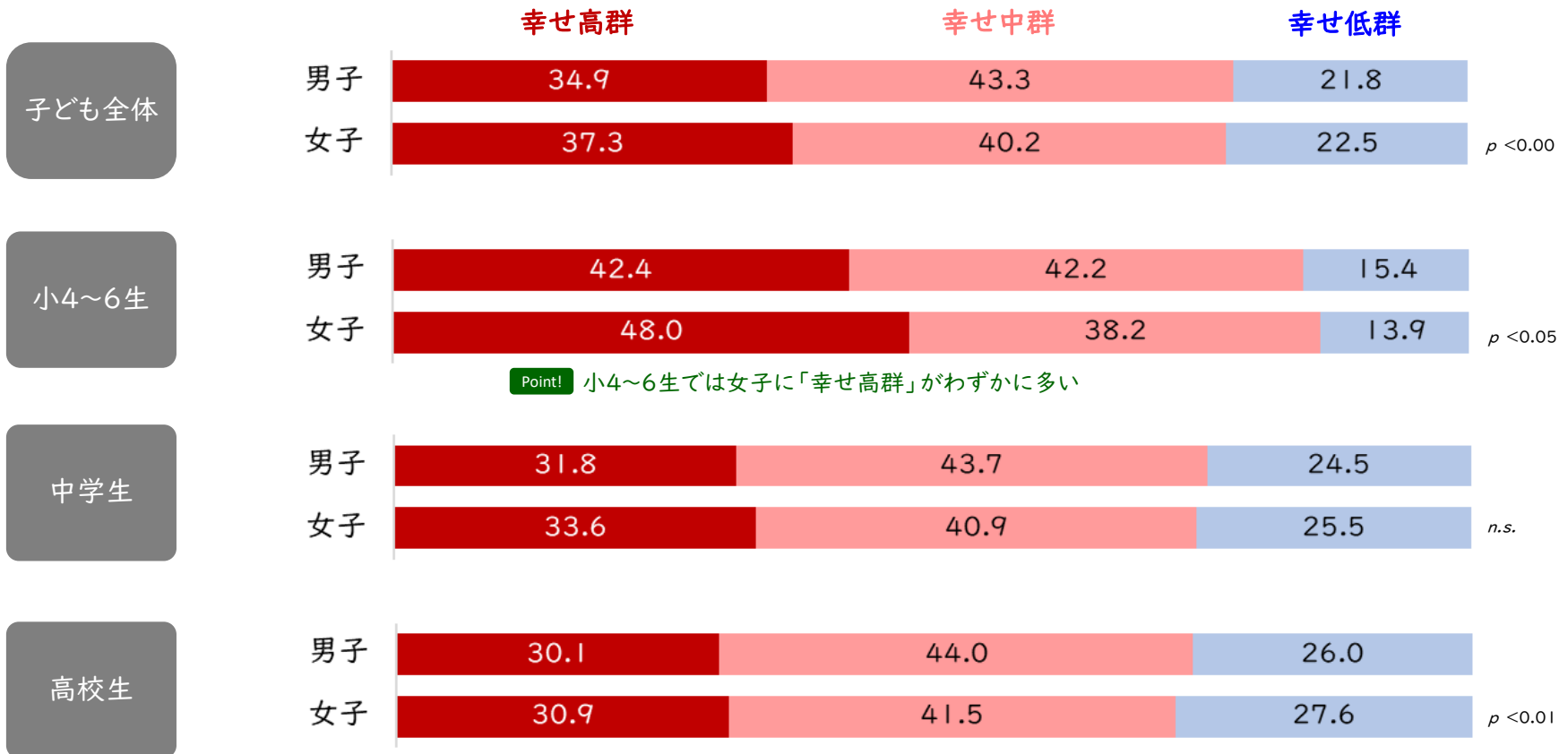
*「あなたは、次のことについてどう思いますか」という設問の回答 (%)。
 *小4~高3生の子どもの回答。数値は、小4~6生:中学生:高校生=1:1:1になるように重みづけを行った。
 *幸せ実感得点は、「とてもそう思う」4点~「まったくそう思わない」1点として、「自分は今、幸せだ」と「自分は将来、幸せになれる」の回答を合算した。
 *幸せ実感得点の8~7点を「幸せ高群」、6点を「幸せ中群」、5~2点を「幸せ低群」とした。
 *東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2023年。



④ 幸せ実感—性による違い

幸せ実感には性による違いはほとんどみられない

● 子どもの幸せ実感（性別）【2023年データ】（%）



*対象は小4~高3生の子ども。子ども全体の数値は、小4~6生:中学生:高校生=1:1:1になるように重みづけを行った。

*「自分は今、幸せだ」と「自分は将来、幸せになれる」の2項目について、「とてもそう思う」4点~「まったくそう思わない」1点として数値を合算し、8~7点を「幸せ高群」、6点を「幸せ中群」、5~2点を「幸せ低群」とした。

*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2023年。

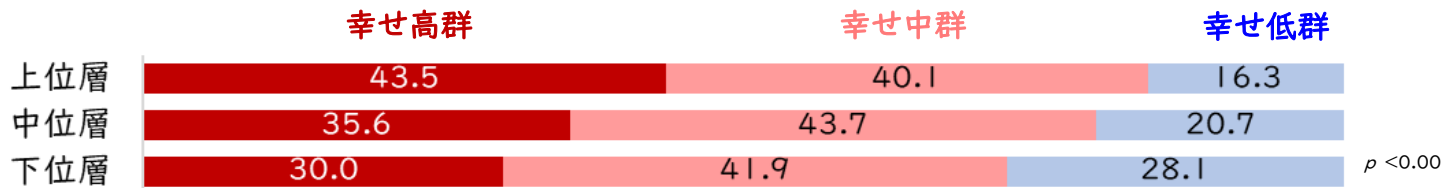


⑤ 幸せ実感—成績による違い

いずれの学校段階でも、成績がよい子どもほど幸せ実感が高い

●子どもの幸せ実感（成績別）【2023年データ】（%）

子ども全体

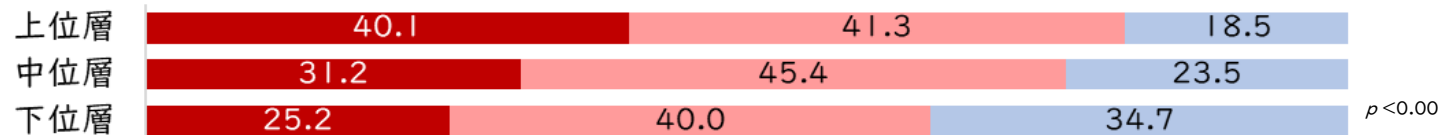


Point! 「幸せ高群」の比率は、成績上位層43.5%>中位層35.6%>下位層30.0%

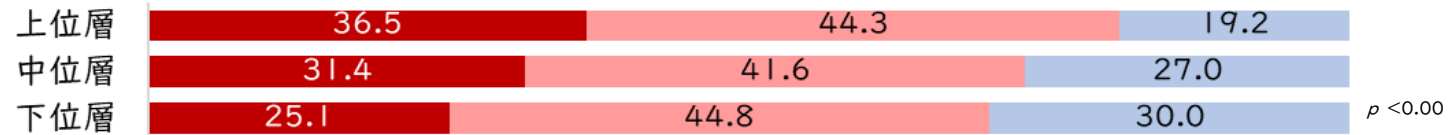
小4～6生



中学生



高校生



*対象は小4～高3生の子ども。子ども全体の数値は、小4～6生：中学生：高校生=1：1：1になるように重みづけを行った。

*「自分は今、幸せだ」と「自分は将来、幸せになれる」の2項目について、「とてもそう思う」4点～「まったくそう思わない」1点として数値を合算し、8～7点を「幸せ高群」、6点を「幸せ中群」、5～2点を「幸せ低群」とした。

*成績は、国語・算数/数学・理科・社会・英語（小4は除く）の5段階の自己評価を合計し、上位層、中位層、下位層がそれぞれ3分の1になるように分けた。

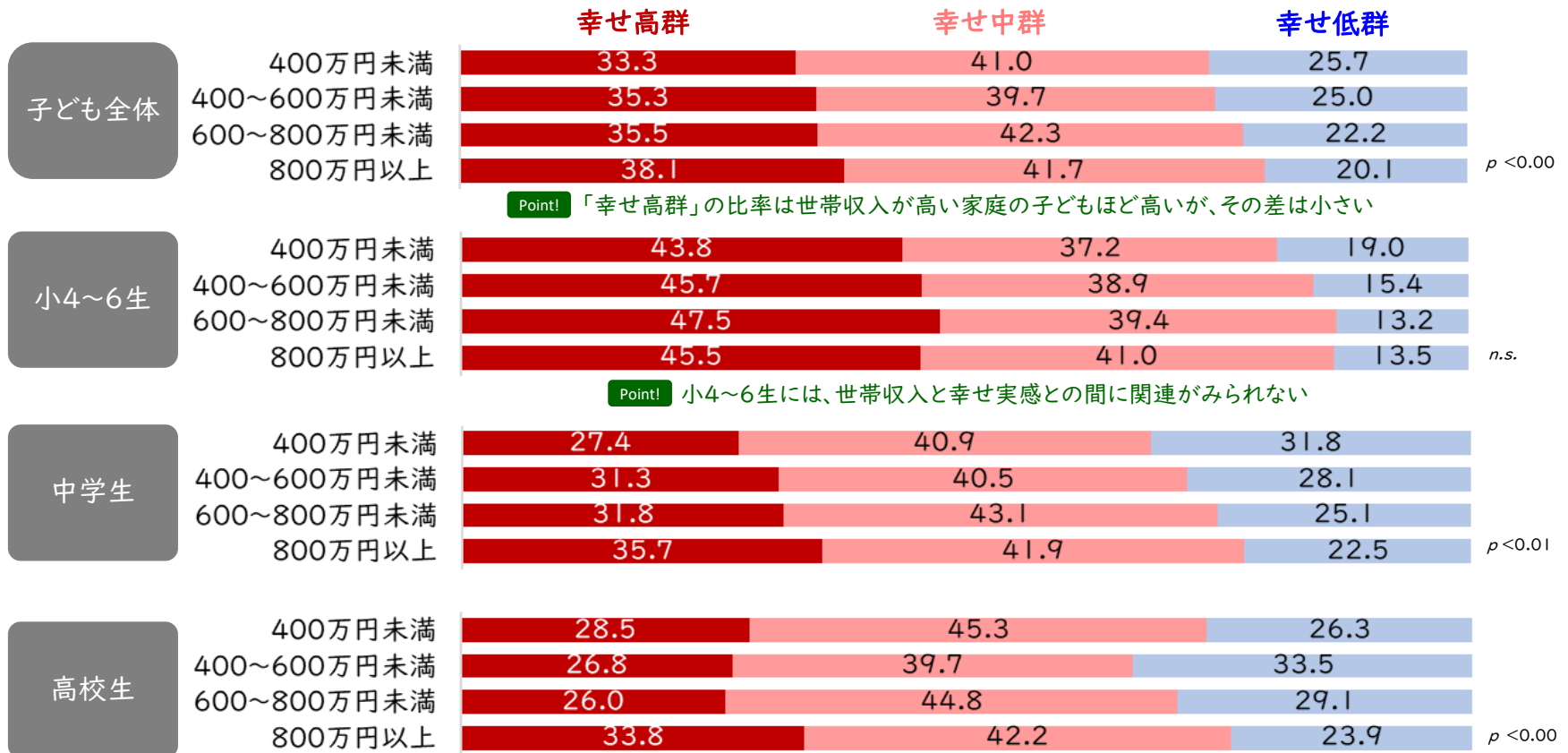
*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2023年。



⑥ 幸せ実感—世帯収入による違い

世帯収入が高い家庭の子どもの方が幸せ実感が高いが、その差は小さい

● 子どもの幸せ実感（世帯収入別）【2023年データ】（%）



*対象は小4~高3生の子ども。子ども全体の数値は、小4~6生:中学生:高校生=1:1:1になるように重みづけを行った。

*「自分は今、幸せだ」と「自分は将来、幸せになれる」の2項目について、「とてもそう思う」4点~「まったくそう思わない」1点として数値を合算し、8~7点を「幸せ高群」、6点を「幸せ中群」、5~2点を「幸せ低群」とした。

*世帯収入は、保護者による回答。

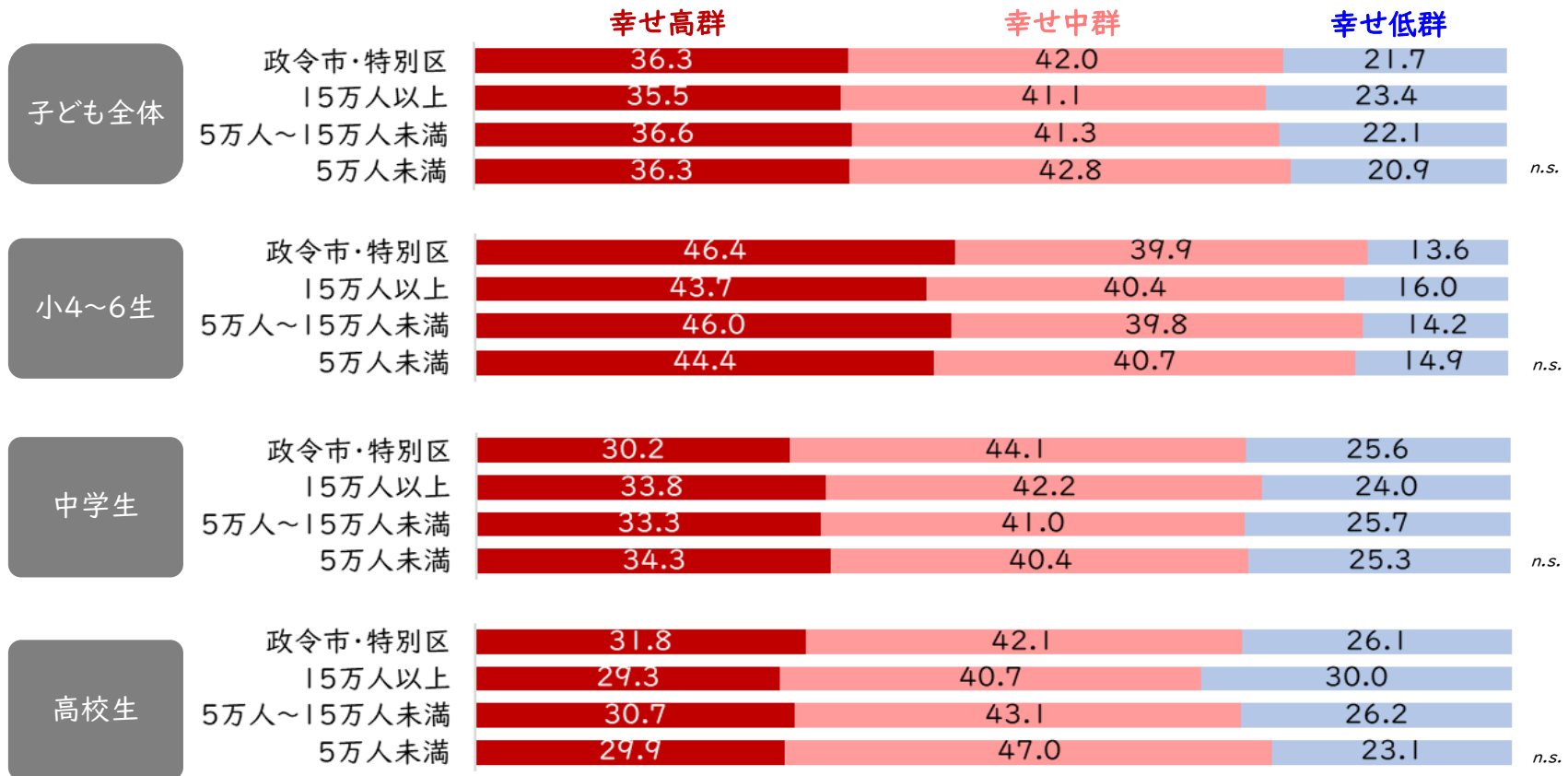
*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2023年。



⑦ 幸せ実感—居住地による違い

居住する自治体の人口規模による差はみられない

● 子どもの幸せ実感（居住地別）【2023年データ】（%）



*対象は小4～高3生の子ども。子ども全体の数値は、小4～6生：中学生：高校生＝1：1：1になるように重みづけを行った。

*「自分は今、幸せだ」と「自分は将来、幸せになれる」の2項目について、「とてもそう思う」4点～「まったくそう思わない」1点として数値を合算し、8～7点を「幸せ高群」、6点を「幸せ中群」、5～2点を「幸せ低群」とした。

*地域は居住する自治体（市区町村）の人口規模により分類した。

*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2023年。



⑧幸せ実感の個人変化

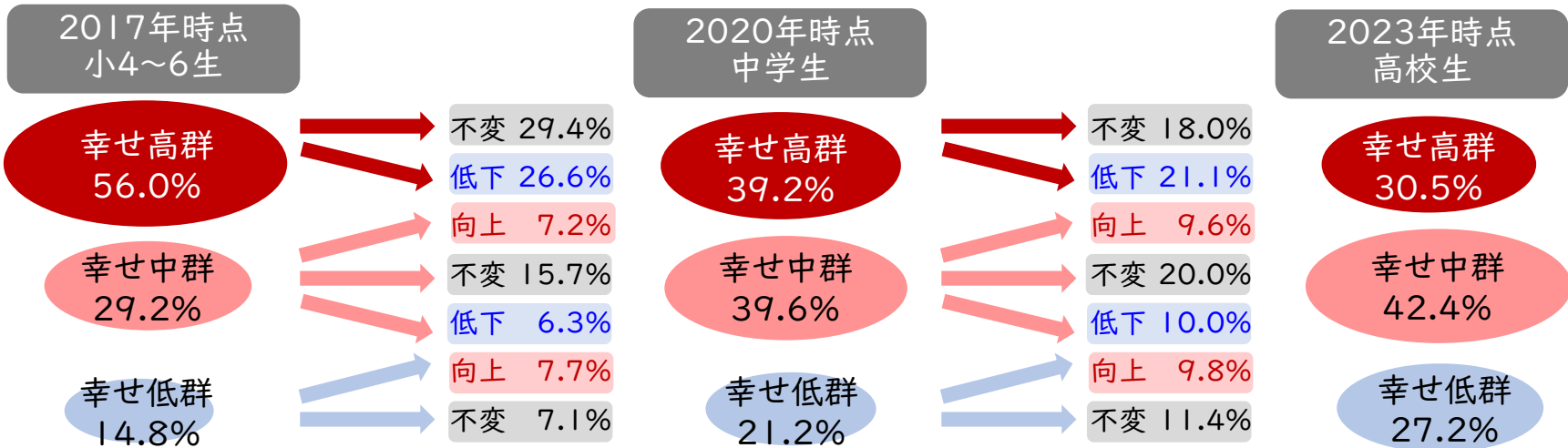
学年が上がるとともに幸せ実感が低下する子どもが多い

●子どもの幸せ実感の個人変化（時点間の相関係数）【2017・20・23年データ】



Point! 相関係数は0.4前後であり、精緻を宇しても幸せ実感が変わらない子どももいるが、変わる子どもが一定の割合で発生する

●子どもの幸せ実感の個人変化【2017・20・23年データ】 (%)



不変52.2% > 低下32.9% > 向上14.9%

Point! 向上する子どもよりも 低下する子どもの方が多い

不変49.5% > 低下31.1% > 向上19.4%

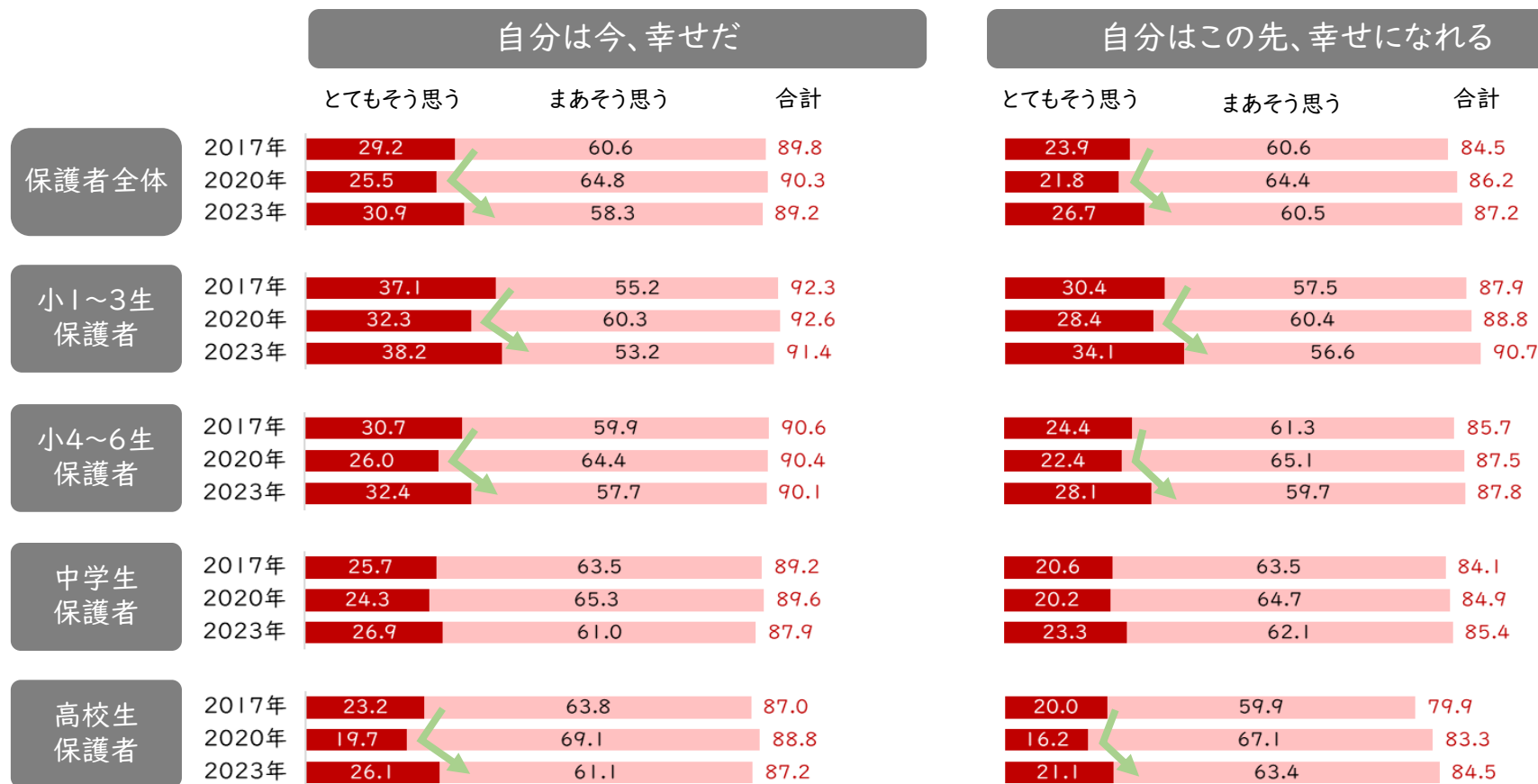
*2017年時点で小4～6生であり、17年、20年、23年調査でいずれも回答している1,745名を対象に分析。
 *「自分は今、幸せだ」と「自分は将来、幸せになれる」の2項目について、「とてもそう思う」4点～「まったくそう思わない」1点として数値を合算し、8～7点を「幸せ高群」、6点を「幸せ中群」、5～2点を「幸せ低群」とした。
 *東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2017・20・23年。



①保護者の今と将来の幸せ(経年比較)

「とてもそう思う」は20年に一時的に低下したものの、23年には回復

●保護者の今と将来の幸せ【2017・20・23年データ】(%)



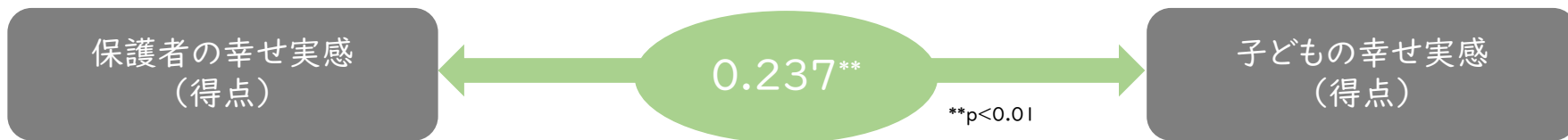
*「あなたは、次のことについてどう思いますか」という設問の回答(%)。「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」は図から省略した。
 *小1~3生の保護者の回答。保護者全体の数値は、小1~3生:小4~6生:中学生:高校生=1:1:1:1になるように重みづけを行った。
 *東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2017・20・23年。



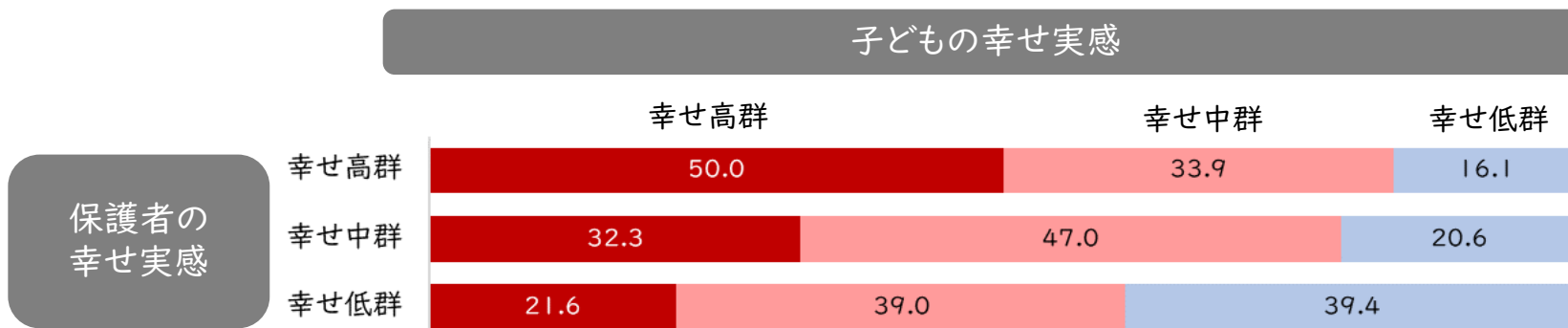
②保護者と子どもの幸せ実感の相関

保護者の幸せ実感と子どもの幸せ実感には関連がみられる

●保護者と子どもの幸せ実感の相関（相関係数）【2023年データ】



●保護者と子どもの幸せ実感の相関【2023年データ】(%)



Point! 保護者の幸せ実感が高いと、子どもの幸せ実感も高い

*子どもは小4～高3生、保護者は対象となる子どもの保護者。数値は、小4～6生：中学生：高校生=1：1：1になるように重みづけを行った。

*子ども、保護者ともに、「自分は今、幸せだ」と「自分は将来、幸せになれる」（保護者は、「自分はこの先、幸せになれる」）の2項目について、「とてもそう思う」4点～「まったくそう思わない」1点として数値を合算し、8～7点を「幸せ高群」、6点を「幸せ中群」、5～2点を「幸せ低群」とした。

*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2023年。



③保護者と子どもの幸せ実感の関連(時系列分析)

6年間の追跡では、保護者の幸せ実感がその後の子どもの幸せ実感に影響

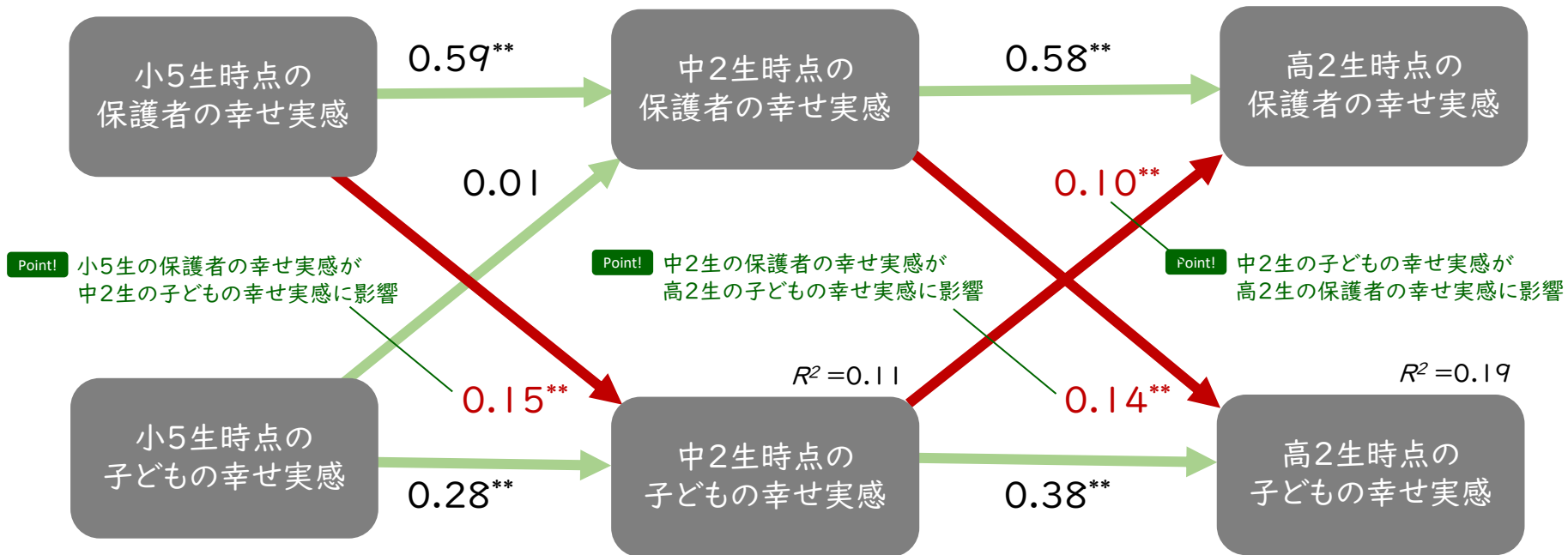
●保護者と子どもの幸せ実感の相互影響(6年間追跡)【2017・20・23年データ】

小5生→中2生→高2生(同一の親子を6年間追跡)

2017年調査

2020年調査

2023年調査



*同一の親子を6年間追跡した結果。2017年時点で小5生だった1,627組の親子を対象に分析。

*同じ時点の保護者と子どもの関連(共分散/誤差間共分散)、時点間の幸せ実感の関連(自己回帰項)とともに、交差するパスが有意になるかを検証。

*幸せ実感は、子ども、保護者ともに、「自分は今、幸せだ」と「自分は将来、幸せになれる」の2項目について、「とてもそう思う」4点~「まったくそう思わない」1点として数値を合算した数値。

*カイ2乗値=39.215 (df=4, p=0.000)、CFI=0.969、RMSEA=0.074。**p<0.01。保護者の幸せ実感と子どもの幸せ実感の共分散、誤差間共分散は図から省略した。

*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2017・20・23年。



①自分や人間関係の満足度（経年比較）

自分の性格、成績、人間関係の満足度は大きな変化がみられない

●自分や人間関係の満足度【2017・20・23年データ】（%）



*「あなたは、次のことにどれくらい満足していますか」という設問の回答（%）。数値は、「とても満足している」と「まあ満足している」の合計。

*小4~高3生の子どもの回答。子ども全体の数値は、小4~6生：中学生：高校生＝1：1：1になるように重みづけを行った。

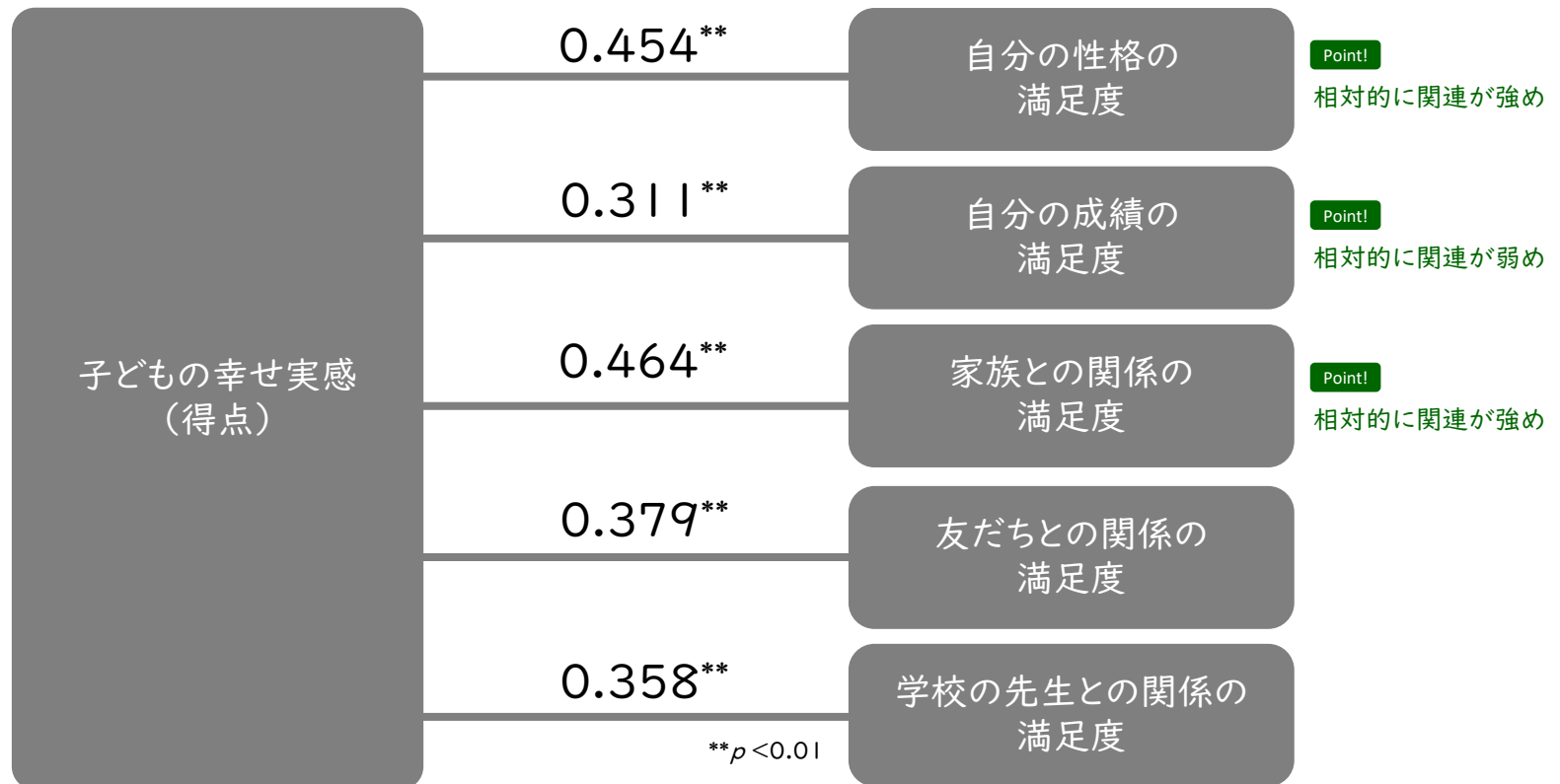
*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2017・20・23年。



②自分や人間関係の満足度と幸せ実感の関連(1)

「家族との関係」「自分の性格」に満足している子どもは、幸せ実感が高い

●子どもの幸せ実感と満足度の関連(相関係数)【2023年データ】



*小4~高3生の子どもの回答。子ども全体の数値は、小4~6生:中学生:高校生=1:1:1になるように重みづけを行った。

*幸せ実感(得点)は、「自分は今、幸せだ」と「自分は将来、幸せになれる」について「とてもそう思う」4点~「まったくそう思わない」1点として合算したものの(8点から2点に分布)。

*それぞれの満足度は、満足度をたずねる質問について「とても満足している」4点、「まあ満足している」3点、「あまり満足していない」2点、「まったく満足していない」1点と換算した。

*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2023年。

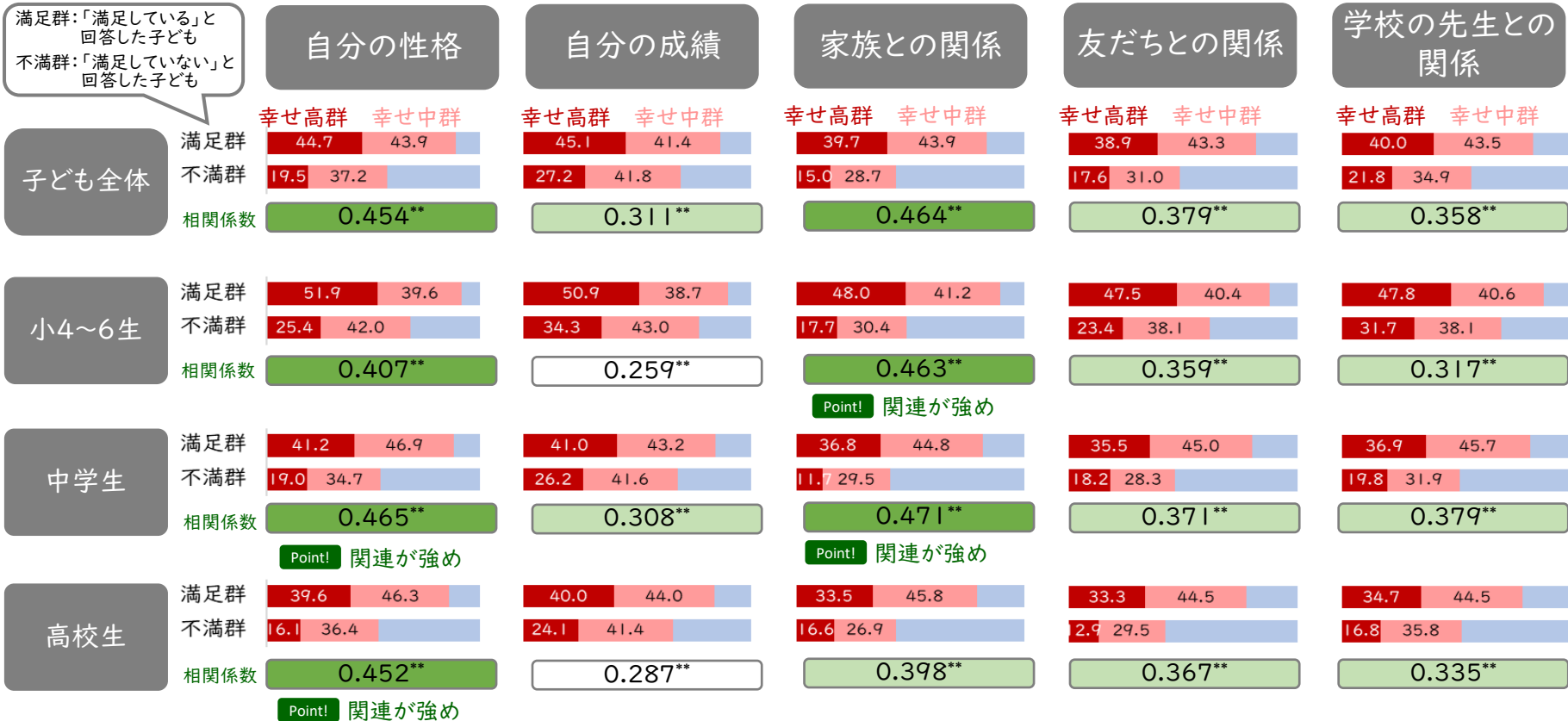


③自分や人間関係の満足度と幸せ実感の関連(2)

小中は「家族との関係」、中高は「自分の性格」の満足度との関連が強め

●子どもの幸せ実感(自分や人間関係の満足度別)【2023年データ】(%)

満足群:「満足している」と回答した子ども
不満群:「満足していない」と回答した子ども



*小4~高3生の子どもの回答。子ども全体の数値は、小4~6生:中学生:高校生=1:1:1になるように重みづけを行った。
 *満足群は満足度をたずねる質問に「とても満足している」「まあ満足している」と回答した子ども、不満群は「あまり満足していない」「まったく満足していない」と回答した子ども。
 *幸せ実感は、「自分は今、幸せだ」と「自分は将来、幸せになれる」について「とてもそう思う」4点~「まったくそう思わない」1点として合算し、8~7点を「幸せ高群」、6点を「幸せ中群」、5~2点を「幸せ低群」とした。「幸せ低群」の数値は省略した。相関係数は、幸せ実感得点と各満足度との関連をみた。**p<0.01。
 *東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2023年。



①母親との会話（経年比較）

母親との会話は全体に増加する傾向がみられる

●母親との会話【2017・20・23年データ】（%）



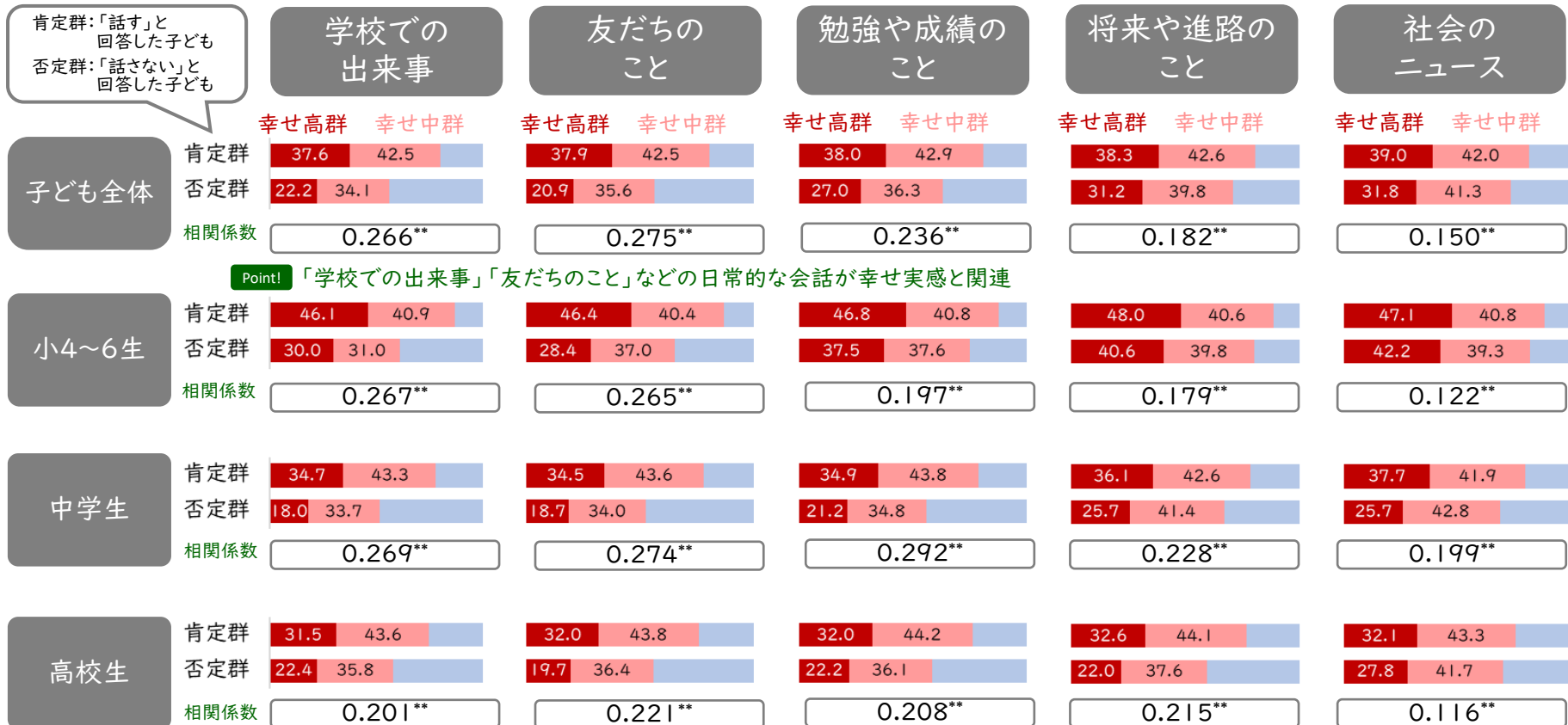
*「ふだん、お父さんやお母さんと、次のことについてどれくらい話をしますか」という設問の「お母さんとの会話」に対する回答（%）。数値は、「よく話す」と「ときどき話す」の合計。
 *母親がいない場合は回答をとばしてもらい、分析には含めていない。
 *小4～高3生の子どもの回答。子ども全体の数値は、小4～6生：中学生：高校生＝1：1：1になるように重みづけを行った。
 *東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2017・20・23年。



②母親との会話と幸せ実感の関連

母親とよく会話している子どもは、幸せ実感が高い

●子どもの幸せ実感（母親との会話別）【2023年データ】（%）



*小4～高3生の子どもの回答。子ども全体の数値は、小4～6生:中学生:高校生=1:1:1になるように重みづけを行った。

*肯定群は母親との会話をたずねる質問に「よく話す」「ときどき話す」と回答した子ども、否定群は「あまり話さない」「まったく話さない」と回答した子ども。

*幸せ実感は、「自分は今、幸せだ」と「自分は将来、幸せになれる」について「とてもそう思う」4点～「まったくそう思わない」1点として合算し、8～7点を「幸せ高群」、6点を「幸せ中群」、5～2点を「幸せ低群」とした。「幸せ低群」の数値は省略した。相関係数は、幸せ実感得点とそれぞれの会話との関連をみた。**p<0.01。

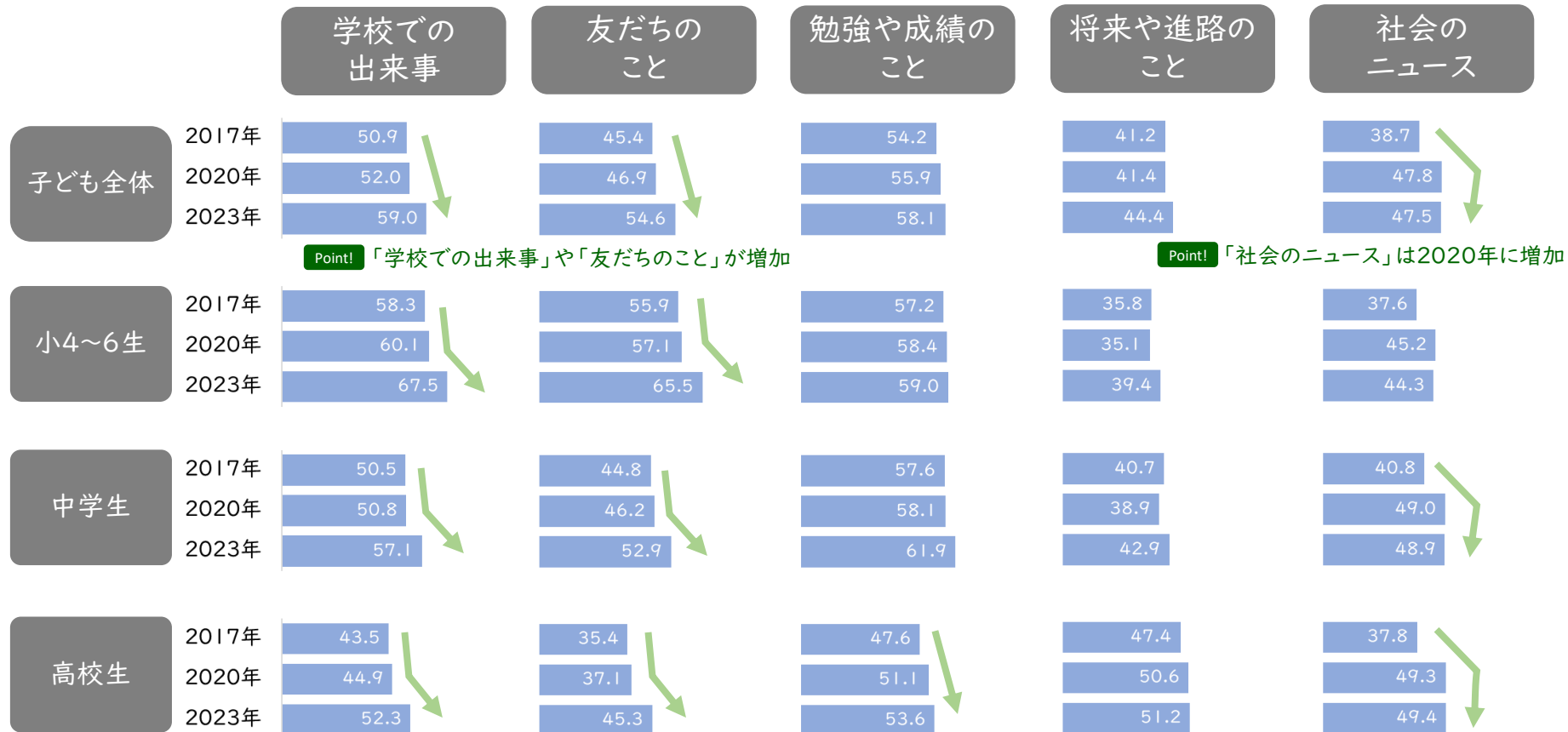
*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2023年。



③父親との会話（経年比較）

父親との会話も全体に増加する傾向がみられる

●父親との会話【2017・20・23年データ】（%）



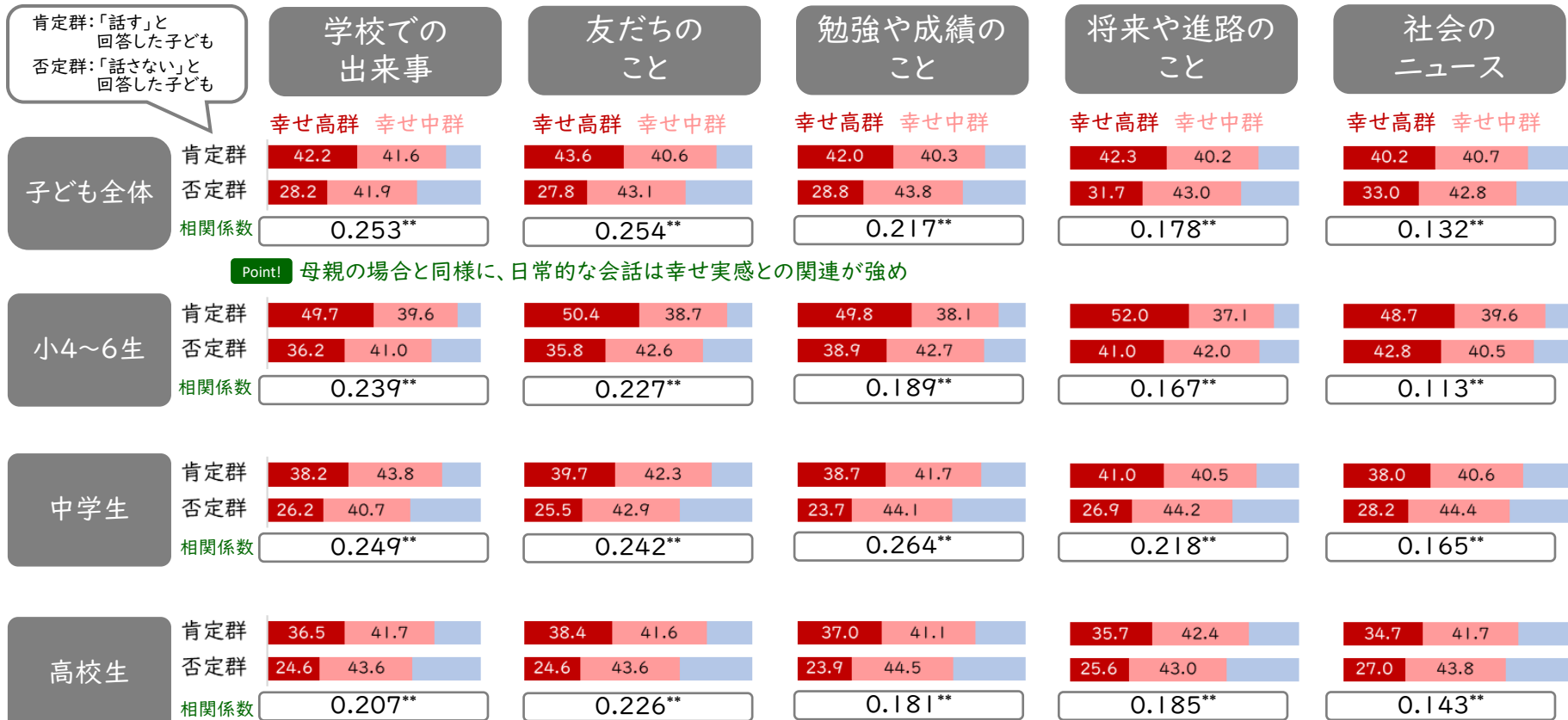
*「ふだん、お父さんやお母さんと、次のことについてどれくらい話をしますか」という設問の「お父さんとの会話」に対する回答（%）。数値は、「よく話す」と「ときどき話す」の合計。
 *父親がいない場合は回答をとばしてもらい、分析には含めていない。
 *小4～高3生の子どもの回答。子ども全体の数値は、小4～6生：中学生：高校生＝1：1：1になるように重みづけを行った。
 *東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2017・20・23年。



④父親との会話と幸せ実感の関連

母親との会話と同様に、父親とよく会話している子どもは幸せ実感が高い

●子どもの幸せ実感（父親との会話別）【2023年データ】（%）



*小4~高3生の子どもの回答。子ども全体の数値は、小4~6生:中学生:高校生=1:1:1になるように重みづけを行った。

*肯定群は父親との会話をたずねる質問に「よく話す」「ときどき話す」と回答した子ども、否定群は「あまり話さない」「まったく話さない」と回答した子ども。

*幸せ実感は、「自分は今、幸せだ」と「自分は将来、幸せになれる」について「とてもそう思う」4点~「まったくそう思わない」1点として合算し、8~7点を「幸せ高群」、6点を「幸せ中群」、5~2点を「幸せ低群」とした。「幸せ低群」の数値は省略した。相関係数は、幸せ実感得点とそれぞれの会話との関連をみた。**p<0.01。

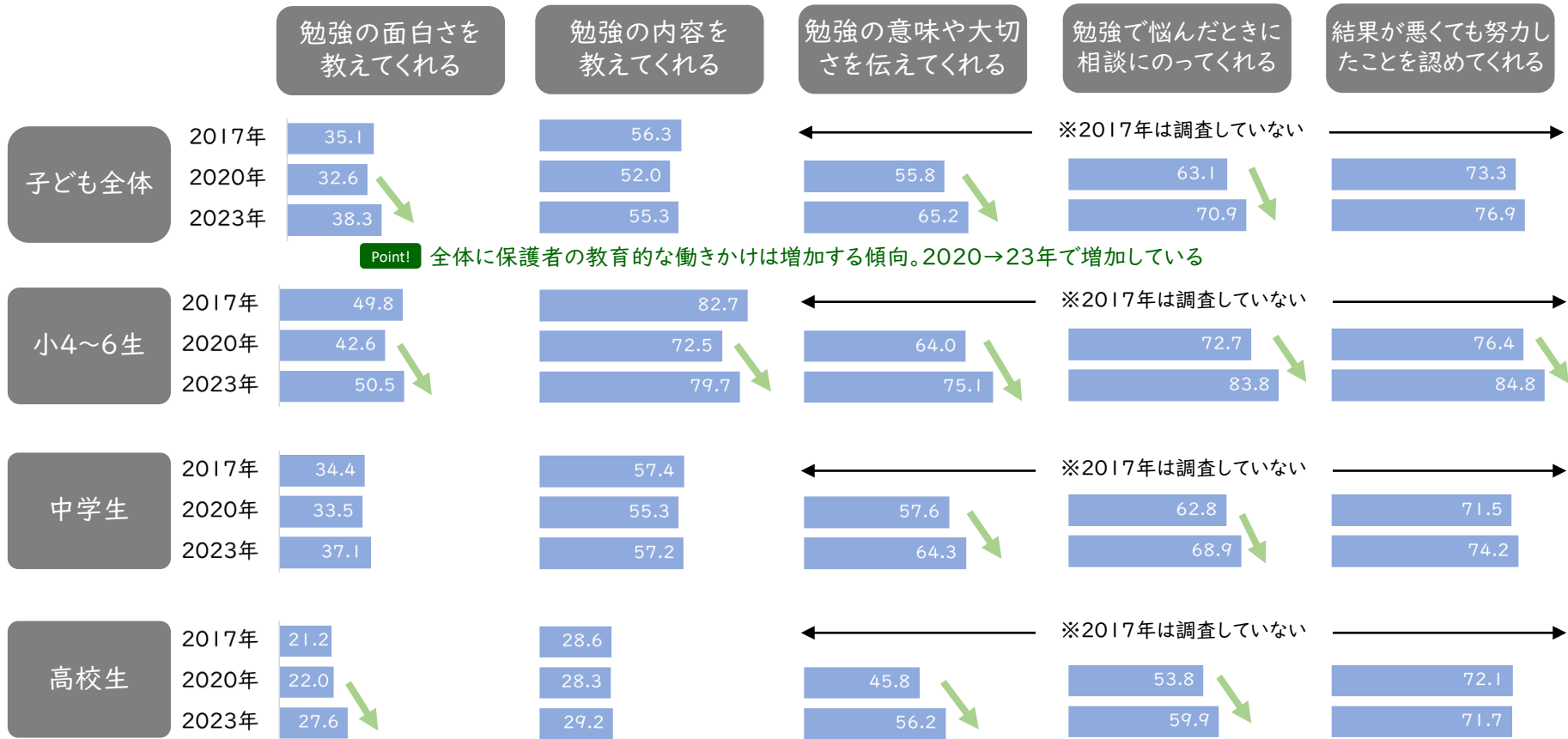
*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2023年。



⑤保護者の教育的な働きかけ(経年比較)

保護者から教育的な働きかけを受ける子どもが20年→23年で増加する傾向

●保護者の教育的な働きかけ【2017・20・23年データ】(%)



*「お父さんやお母さんのあなたに対するかわりについて、次のようなことはどれくらいあてはまりますか」という設問に対する回答(%)。数値は、「とてもあてはまる」と「まああてはまる」の合計。

*小4~高3生の子どもの回答。子ども全体の数値は、小4~6生:中学生:高校生=1:1:1になるように重みづけを行った。

*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2017・20・23年。

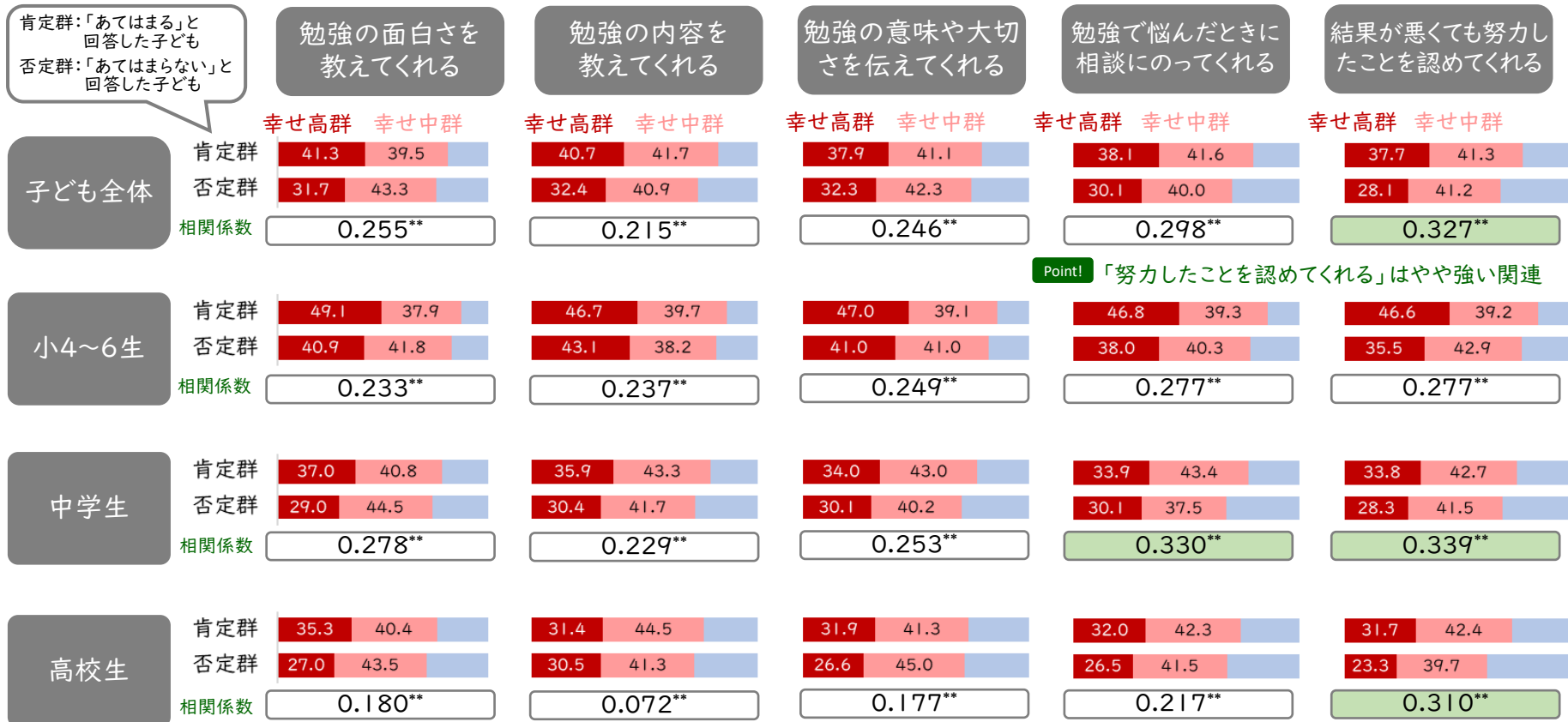


⑥保護者の教育的な働きかけと幸せ実感の関連

保護者から寄り添うような働きかけを受けている子どもは、幸せ実感が高い

●子どもの幸せ実感（保護者の教育的な働きかけ別）【2023年データ】（%）

肯定群:「あてはまる」と回答した子ども
否定群:「あてはまらない」と回答した子ども



*小4～高3生の子どもの回答。子ども全体の数値は、小4～6生:中学生:高校生=1:1:1になるように重みづけを行った。

*肯定群は保護者の働きかけについての質問に「とてもあてはまる」「まああてはまる」と回答した子ども、否定群は「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」と回答した子ども。

*幸せ実感は、「自分は今、幸せだ」と「自分は将来、幸せになれる」について「とてもそう思う」4点～「まったくそう思わない」1点として合算し、8～7点を「幸せ高群」、6点を「幸せ中群」、5～2点を「幸せ低群」とした。「幸せ低群」の数値は省略した。相関係数は、幸せ実感得点とそれぞれの会話との関連をみた。**p<0.01。

*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2023年。



⑦学校生活の状況（経年比較）

学校生活にかかわる各項目は経年で大きな変化がみられない

●学校生活の状況【2017・20・23年データ】（%）



*「学校生活について、次のようなことはどれくらいあてはまりますか」という設問の回答（%）。数値は、「とてもあてはまる」と「まああてはまる」の合計。

*小4～高3生の子どもの回答。子ども全体の数値は、小4～6生：中学生：高校生＝1：1：1になるように重みづけを行った。

*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2017・20・23年。

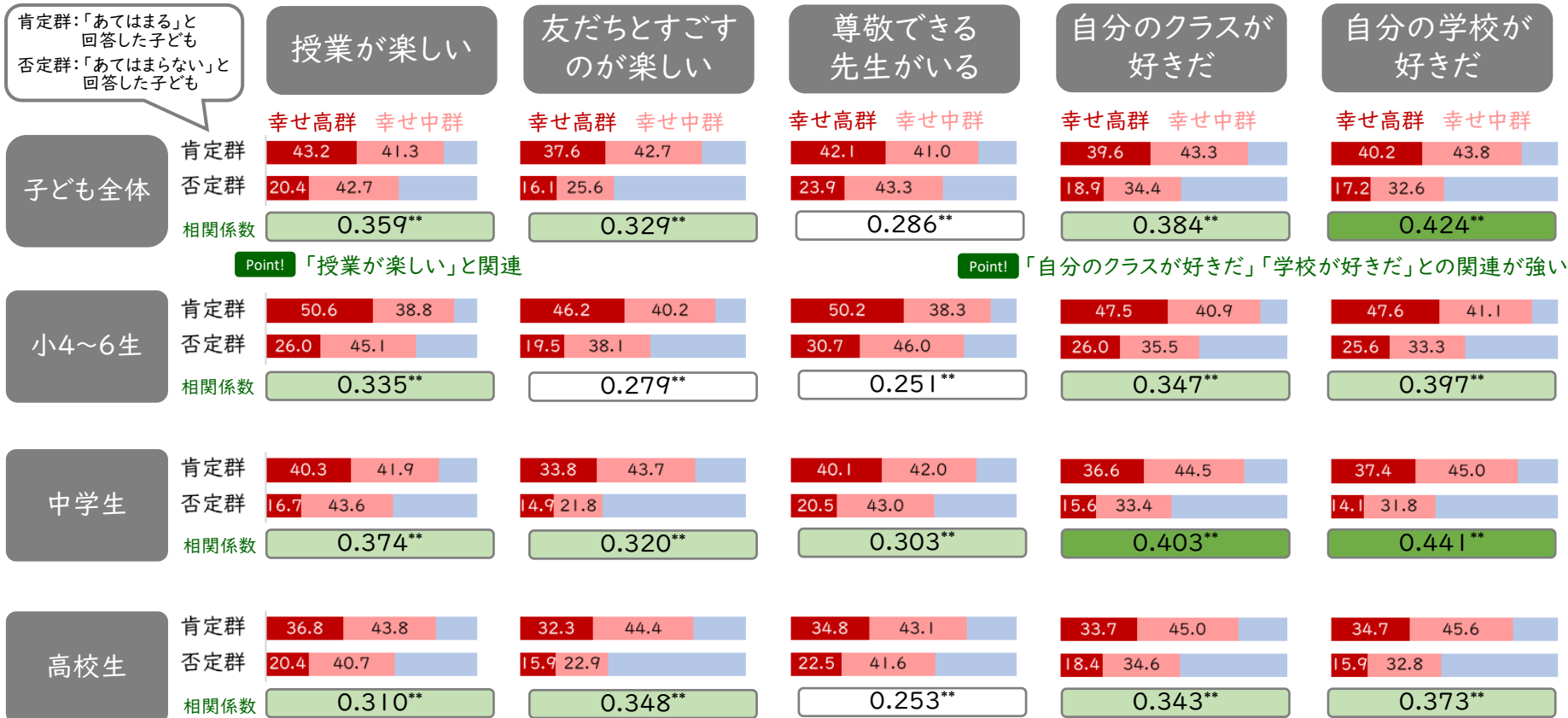


⑧学校生活の状況と幸せ実感の関連

学校生活が充実している子どもほど、幸せ実感が高い

●子どもの幸せ実感(学校生活の状況別)【2023年データ】(%)

肯定群:「あてはまる」と回答した子ども
否定群:「あてはまらない」と回答した子ども



*小4~高3生の子どもへの回答。子ども全体の数値は、小4~6生:中学生:高校生=1:1:1になるように重みづけを行った。

*肯定群は学校生活をたずねる質問に「とてもあてはまる」「まああてはまる」と回答した子ども、否定群は「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」と回答した子ども。

*幸せ実感は、「自分は今、幸せだ」と「自分は将来、幸せになれる」について「とてもそう思う」4点~「まったくそう思わない」1点として合算し、8~7点を「幸せ高群」、6点を「幸せ中群」、5~2点を「幸せ低群」とした。「幸せ低群」の数値は省略した。相関係数は、幸せ実感得点と各項目との関連をみた。**p<0.01。

*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2023年。



⑨友だち関係の状況(経年比較)

友だちと意見が合わず不安なったり、関係に疲れたりする割合が増加

●友だち関係の状況【2017・20・23年データ】(%)



*「友だちとの関係について、次のことはどれくらいあてはまりますか」という設問に対する回答(%)。数値は、「とてもあてはまる」と「まああてはまる」の合計。

*小4~高3生の子どもの回答。子ども全体の数値は、小4~6生:中学生:高校生=1:1:1になるように重みづけを行った。

*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2017・20・23年。



⑩友だち関係の状況と幸せ実感の関連

友だち関係が良好な子どもほど、幸せ実感が高い

●子どもの幸せ実感(友だち関係の状況別)【2023年データ】(%)



Point! 「意見が合わず不安」や「関係に疲れる」は逆相関

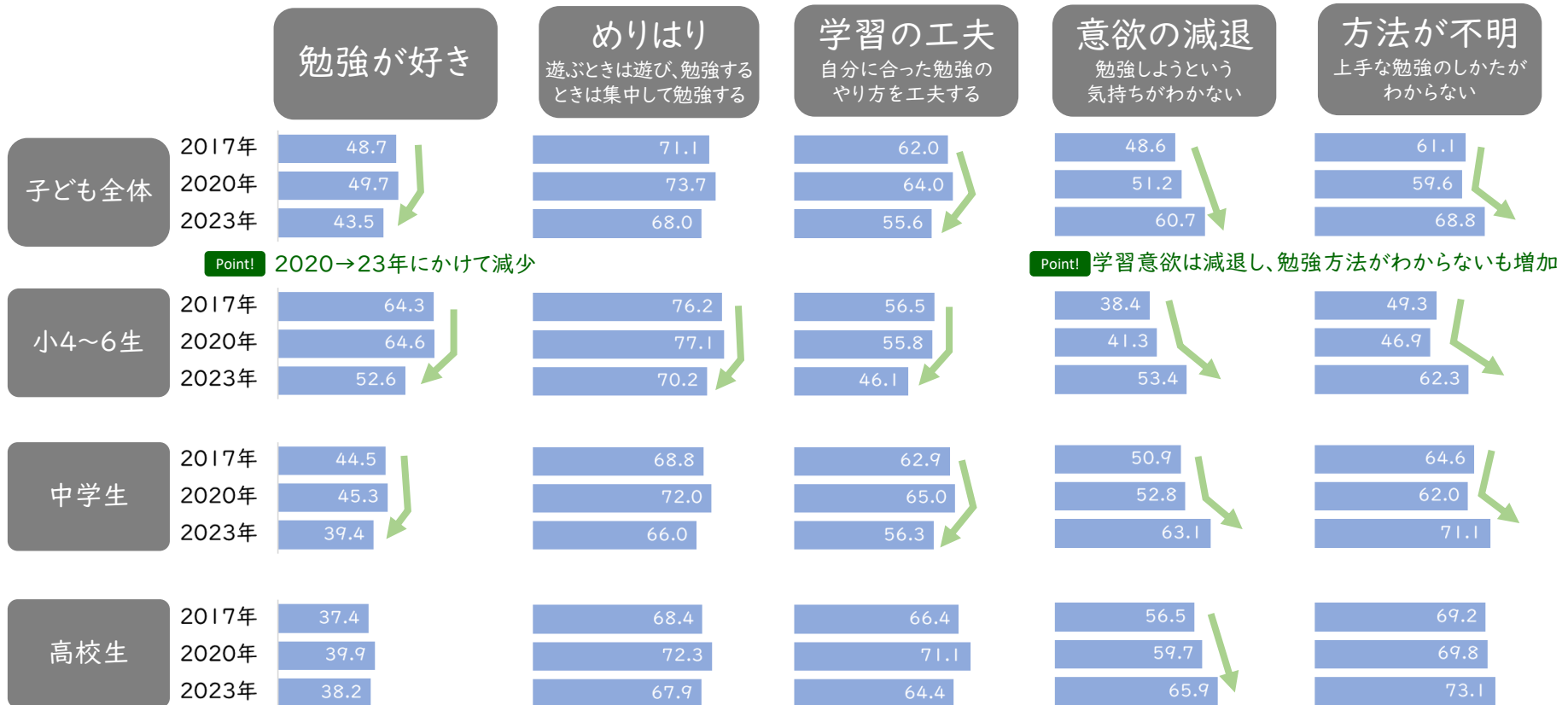
*小4~高3生の子どもの回答。子ども全体の数値は、小4~6生:中学生:高校生=1:1:1になるように重みづけを行った。
 *肯定群は友だち関係をたずねる質問に「とてもあてはまる」「まああてはまる」と回答した子ども、否定群は「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」と回答した子ども。
 *幸せ実感は、「自分は今、幸せだ」と「自分は将来、幸せになれる」について「とてもそう思う」4点~「まったくそう思わない」1点として合算し、8~7点を「幸せ高群」、6点を「幸せ中群」、5~2点を「幸せ低群」とした。「幸せ低群」の数値は省略した。相関係数は、幸せ実感得点とそれぞれの会話との関連をみた。**p<0.01。
 *東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2023年。



⑪ 学びの状況（経年比較）

「勉強が好き」が減少し、「勉強しようという気持ちがわからない」が増加している

● 学びの状況【2017・20・23年データ】（%）



*「勉強が好き」は「勉強がどれくらい好きですか」という質問に対して、「とても好き」「まあ好き」と回答した比率の合計（%）。「めりはり」と「学習の工夫」は「勉強するときに、次のことをどれくらいしますか」という質問に対して、「よくする」「ときどきする」と回答した比率の合計（%）。「意欲の減退」と「方法が不明」は「次のようなことはどれくらいあてはまりますか」という質問に対して、「とてもあてはまる」「まああてはまる」と回答した比率の合計（%）。

*小4～高3生の子どもの回答。子ども全体の数値は、小4～6生：中学生：高校生＝1：1：1になるように重みづけを行った。

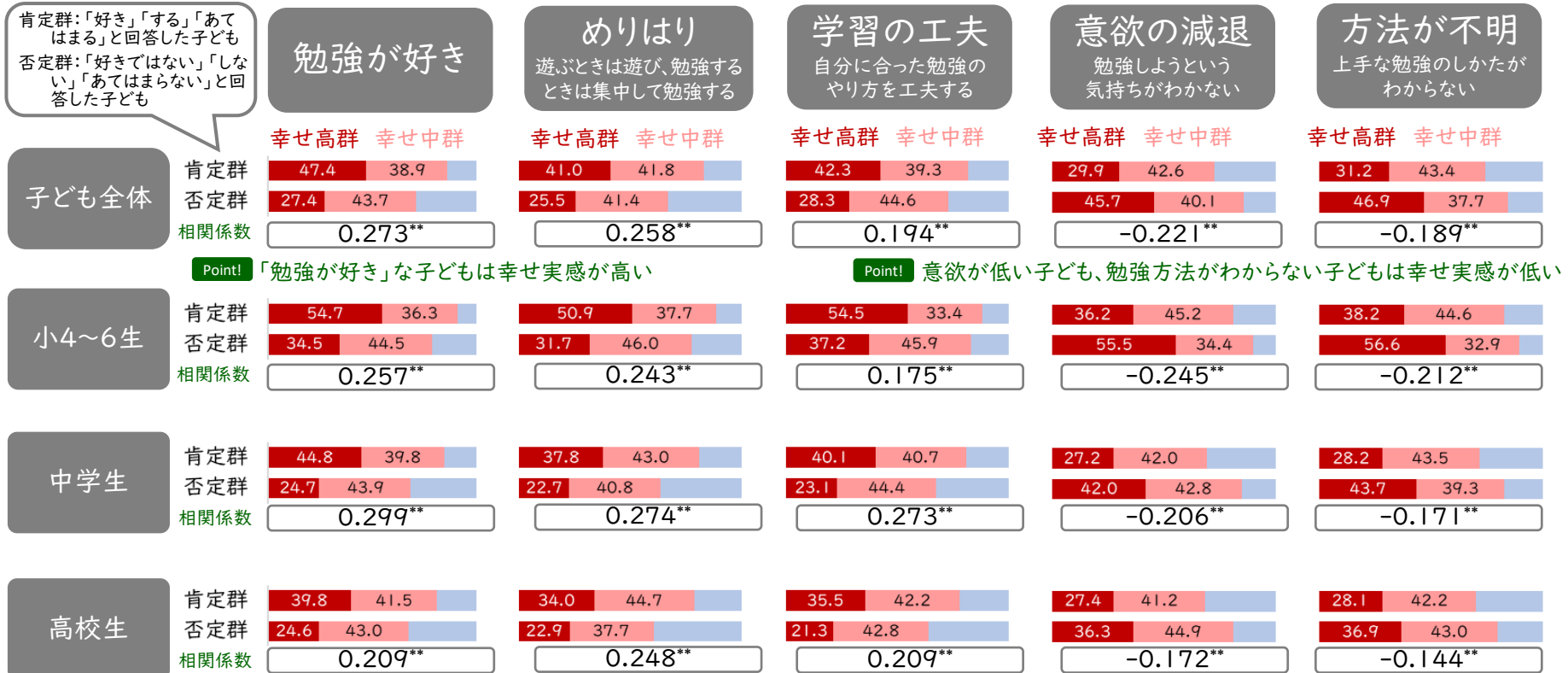
*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2017・20・23年。



⑫学びの状況と幸せ実感の関連

学びにポジティブな意識・行動の子どもほど、幸せ実感が高い

●子どもの幸せ実感(学びの状況別)【2023年データ】(%)



*小4~高3生の子どもの回答。子ども全体の数値は、小4~6生:中学生:高校生=1:1:1になるように重みづけを行った。

*肯定群は勉強が好きかをたずねた質問に「とても好き」「まあ好き」、勉強方法についてたずねた質問に「よくする」「ときどきする」、学習意識についてたずねた質問に「とてもあてはまる」「まああてはまる」と回答した子ども、否定群はそれぞれに「あまり好きではない」「まったく好きではない」、「あまりしない」「まったくくしない」、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」と回答した子ども。

*幸せ実感は、「自分は今、幸せだ」と「自分は将来、幸せになれる」について「とてもそう思う」4点~「まったくそう思わない」1点として合算し、8~7点を「幸せ高群」、6点を「幸せ中群」、5~2点を「幸せ低群」とした。「幸せ低群」の数値は省略した。相関係数は、幸せ実感得点とそれぞれの会話との関連をみた。**p<0.01。

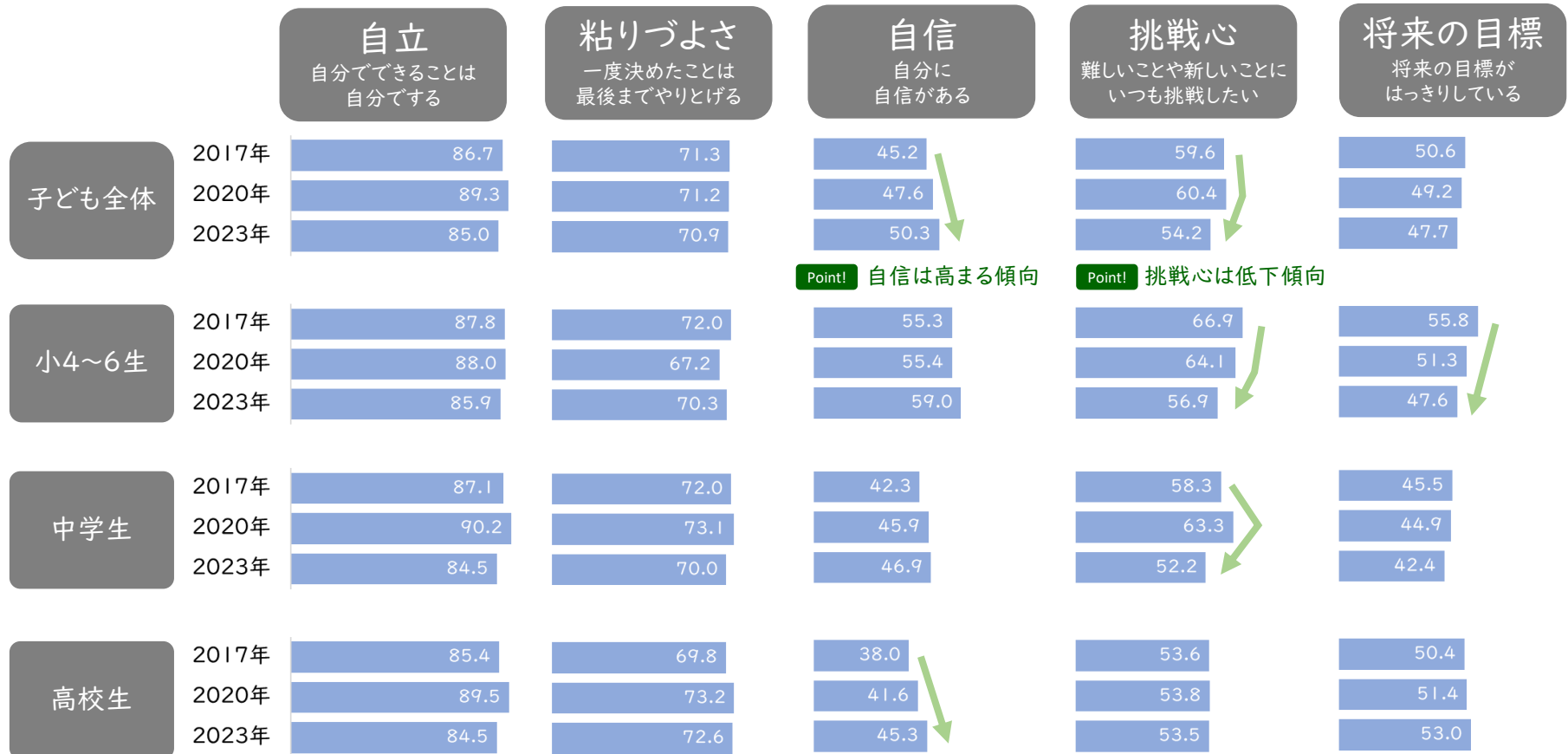
*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2023年。



⑬自己に関する認識(経年比較)

「自信がある」が増加する一方で、「挑戦したい」は減少する傾向がみられる

●自己に関する認識【2017・20・23年データ】(%)



*「あなた自身のことについて、次のようなことはどれくらいあてはまりますか」という設問に対する回答(%)。数値は、「とてもあてはまる」と「まああてはまる」の合計。

*小4~高3生の子どもの回答。子ども全体の数値は、小4~6生:中学生:高校生=1:1:1になるように重みづけを行った。

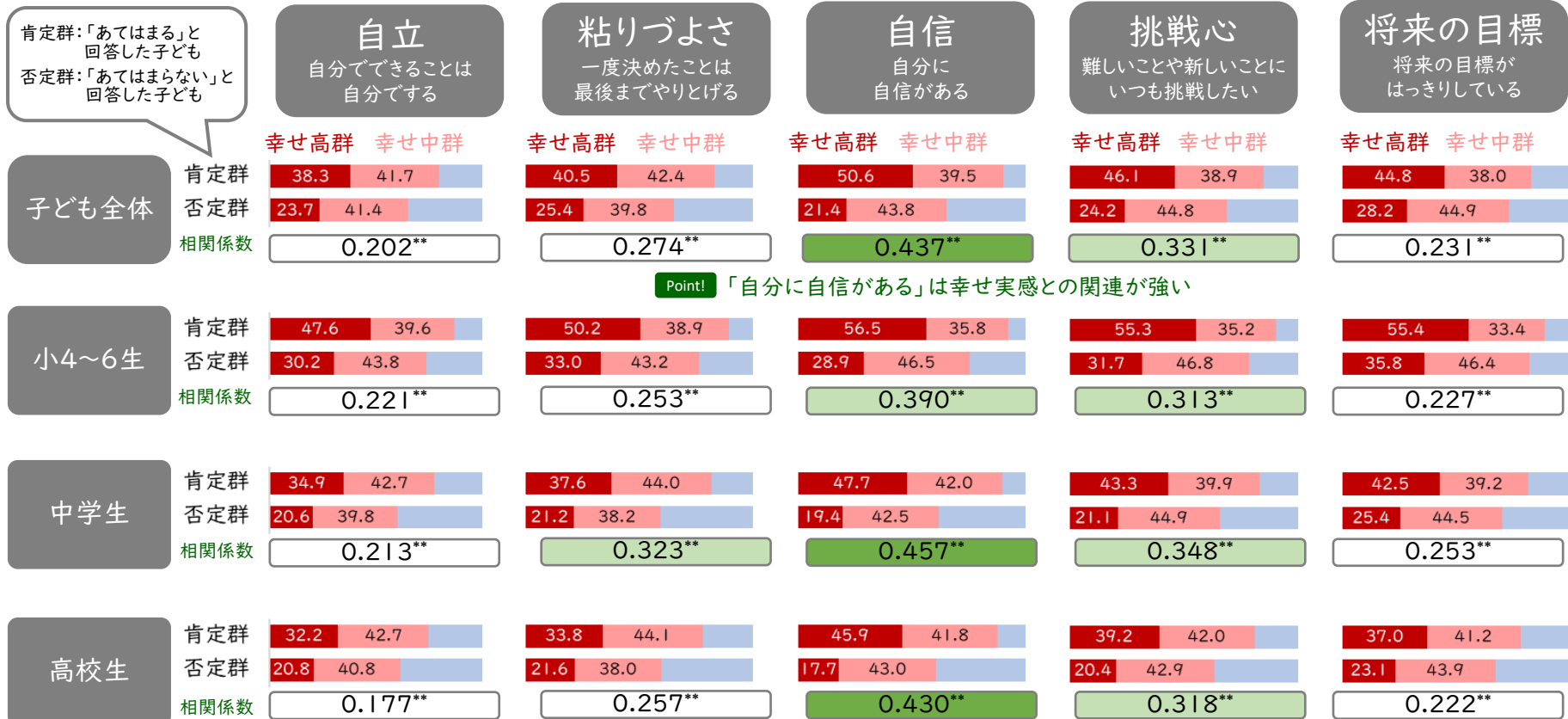
*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2017・20・23年。



⑭自己に関する認識と幸せ実感の関連

肯定的な自己認識を持つ子どもほど、幸せ実感が高い

●子どもの幸せ実感（自己に関する認識別）【2023年データ】（%）



*小4~高3生の子どもの回答。子ども全体の数値は、小4~6生:中学生:高校生=1:1:1になるように重みづけを行った。

*肯定群は自己認識をたずねる質問に「とてもあてはまる」「まああてはまる」と回答した子ども、否定群は「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」と回答した子ども。

*幸せ実感は、「自分は今、幸せだ」と「自分は将来、幸せになれる」について「とてもそう思う」4点~「まったくそう思わない」1点として合算し、8~7点を「幸せ高群」、6点を「幸せ中群」、5~2点を「幸せ低群」とした。「幸せ低群」の数値は省略した。相関係数は、幸せ実感得点とそれぞれの会話との関連をみた。**p<0.01。

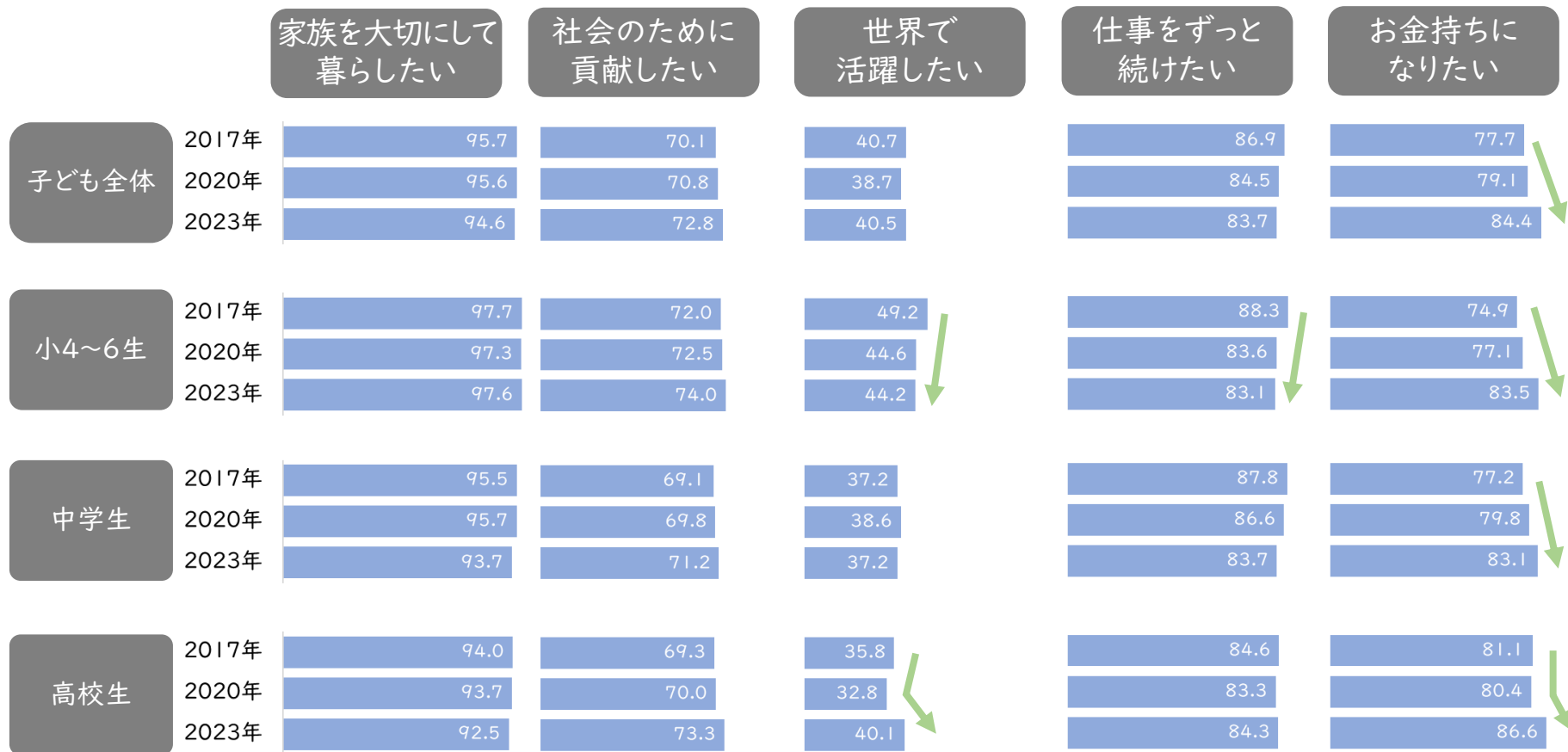
*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2023年。



⑮将来に関する意識(経年比較)

「お金持ちになりたい」という意識が高まっている

●将来に関する意識【2017・20・23年データ】(%)



*「あなた自身の将来について、次のことはどれくらいあてはまりますか」という設問に対する回答(%)。数値は、「とてもあてはまる」と「まああてはまる」の合計。

*小4~高3生の子どもの回答。子ども全体の数値は、小4~6生:中学生:高校生=1:1:1になるように重みづけを行った。

*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2017・20・23年。



⑩将来に関する意識と幸せ実感の関連

「家族を大切にしたい」と思う子どもは、幸せ実感が高い

●子どもの幸せ実感(将来に関する意識別)【2023年データ】(%)

肯定群:「あてはまる」と回答した子ども
否定群:「あてはまらない」と回答した子ども

家族を大切に暮らしたい

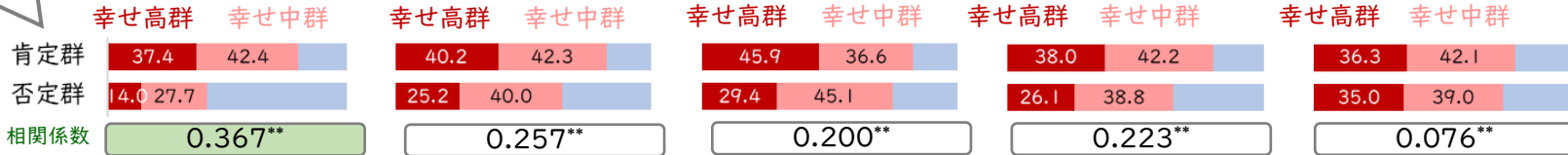
社会のために貢献したい

世界で活躍したい

仕事をずっと続けたい

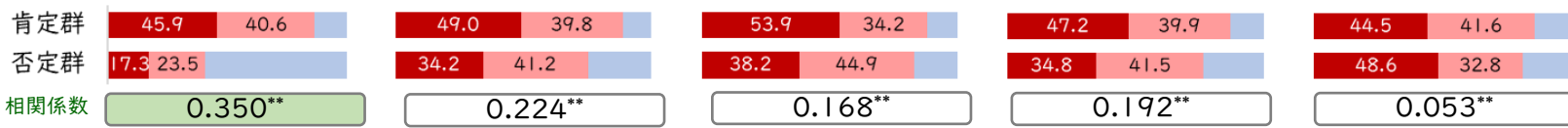
お金持ちになりたい

子ども全体

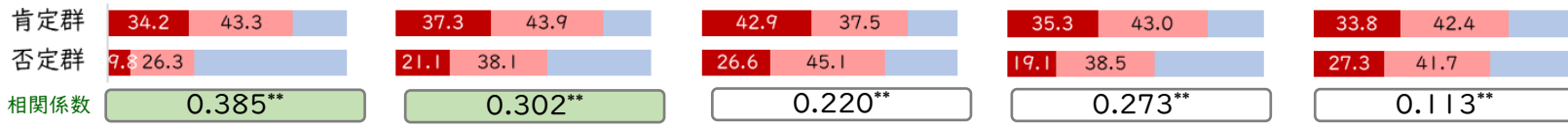


Point! 「家族を大切にしたい」は相関が高め

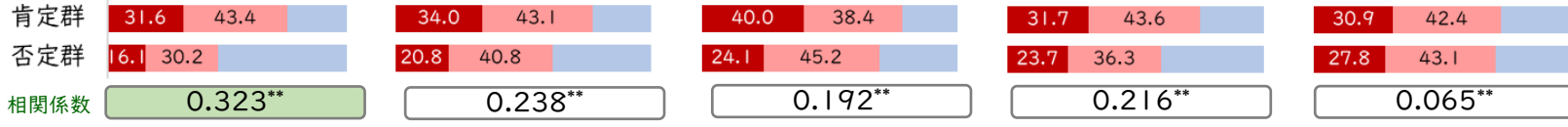
小4~6生



中学生



高校生



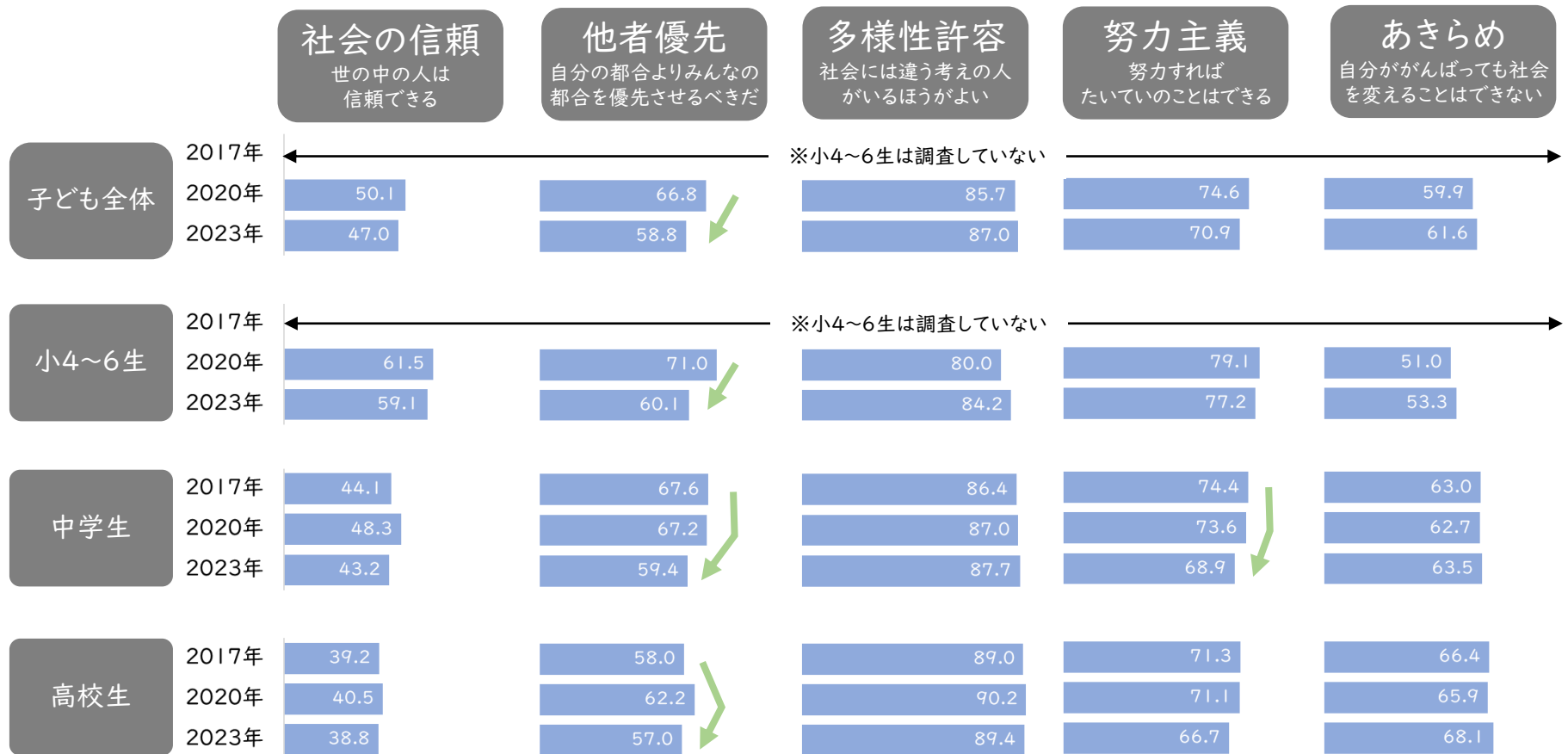
*小4~高3生の子どもの回答。子ども全体の数値は、小4~6生:中学生:高校生=1:1:1になるように重みづけを行った。
 *肯定群は自分の将来をたずねる質問に「とてもあてはまる」「まああてはまる」と回答した子ども、否定群は「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」と回答した子ども。
 *幸せ実感は、「自分は今、幸せだ」と「自分は将来、幸せになれる」について「とてもそう思う」4点~「まったくそう思わない」1点として合算し、8~7点を「幸せ高群」、6点を「幸せ中群」、5~2点を「幸せ低群」とした。「幸せ低群」の数値は省略した。相関係数は、幸せ実感得点とそれぞれの会話との関連をみた。**p<0.01。
 *東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2023年。



⑰社会に対する意識(経年比較)

自分よりも他者を優先させるべきという意識は低下している

●社会に対する意識【2017・20・23年データ】(%)



*「あなた自身のことについて、次のようなことはどれくらいあてはまりますか」という設問に対する回答(%)。数値は、「とてもあてはまる」と「まああてはまる」の合計。

*小4~高3生の子どもへの回答。子ども全体の数値は、小4~6生:中学生:高校生=1:1:1になるように重みづけを行った。

*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2017・20・23年。



⑱社会に対する意識と幸せ実感の関連

「努力すればたいていのことはできる」と思っている子どもほど幸せ実感が高い

●子どもの幸せ実感(社会に対する意識別)【2023年データ】(%)

肯定群:「そう思う」と回答した子ども
否定群:「そう思わない」と回答した子ども

社会の信頼
世の中の人
信頼できる

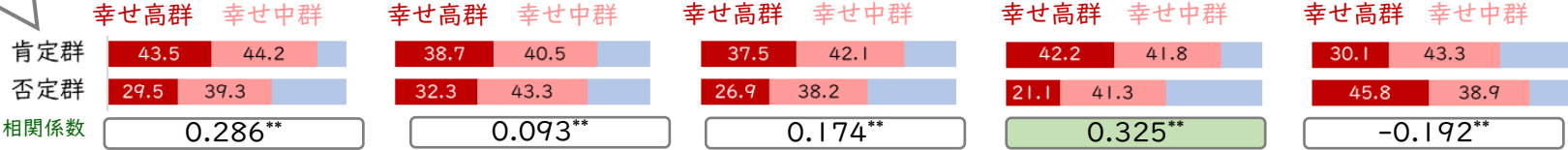
他者優先
自分の都合よりみんなの
都合を優先させるべきだ

多様性許容
社会には違う考えの人が
いるほうがよい

努力主義
努力すれば
たいていのことはできる

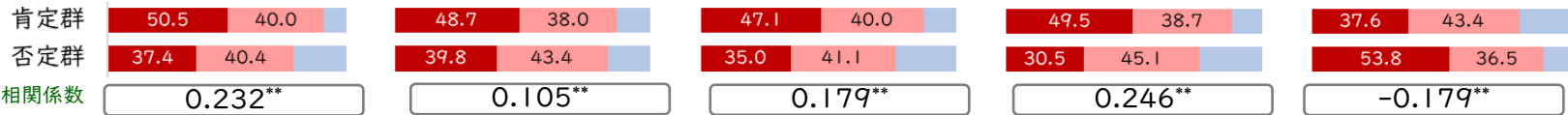
あきらめ
自分がかんばっても社会
を変えることはできない

子ども全体

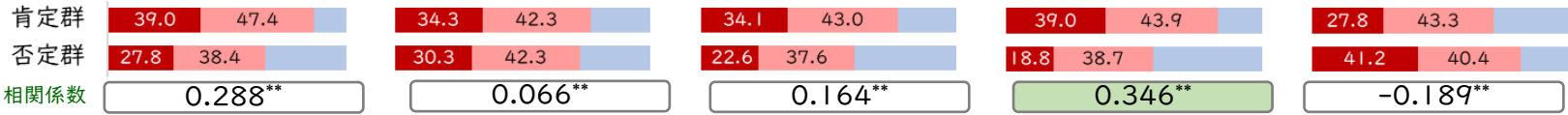


Point! 「努力すればたいていのことはできる」は幸せ実感との関連が強い

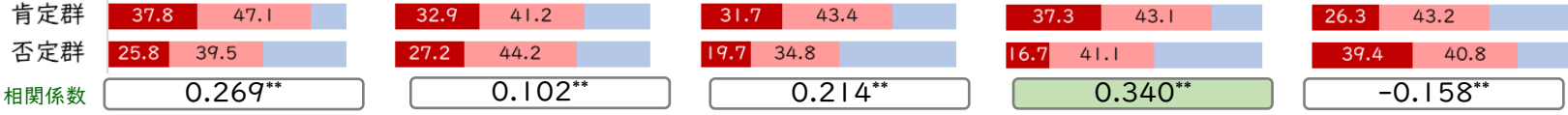
小4~6生



中学生



高校生



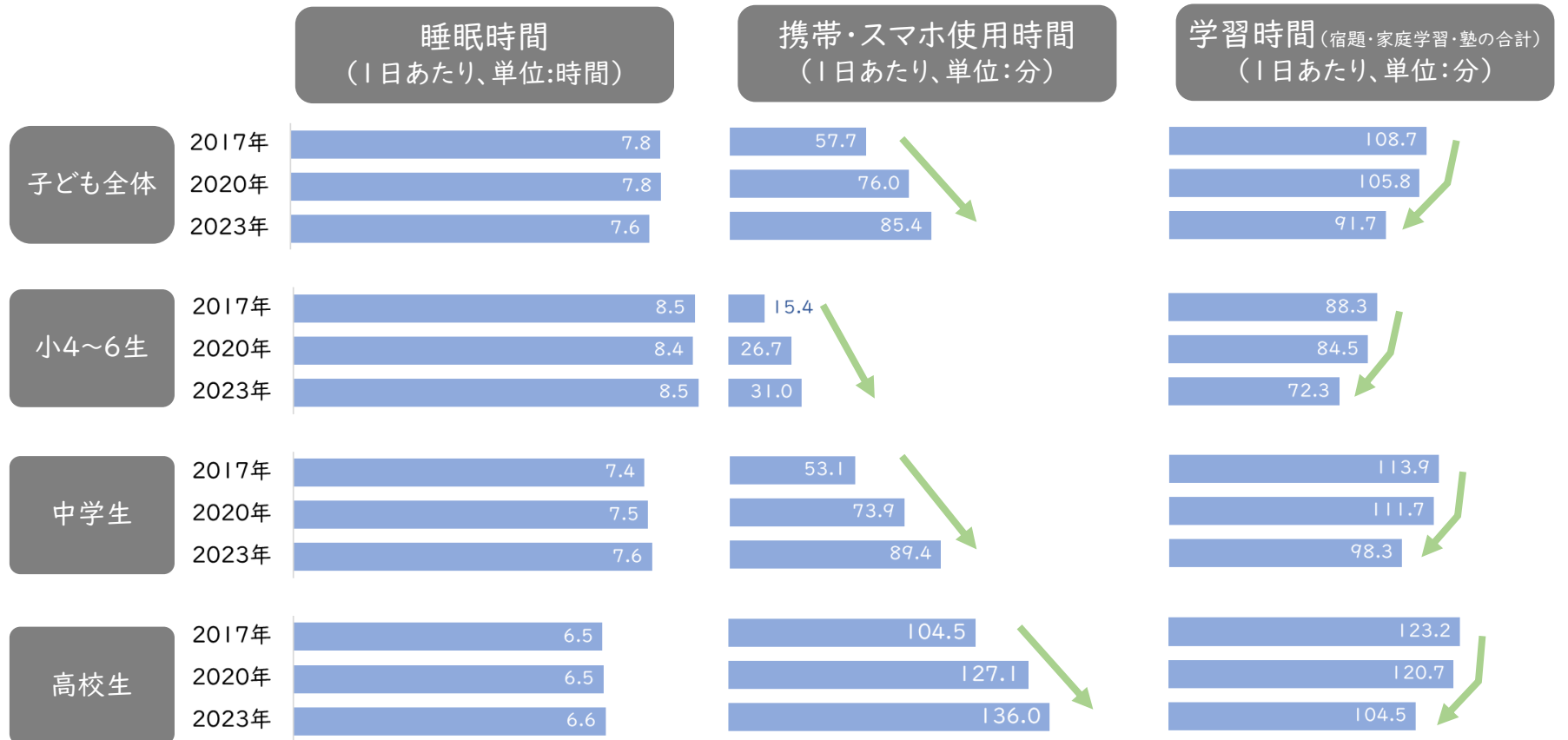
*小4~高3生の子どもへの回答。子ども全体の数値は、小4~6生:中学生:高校生=1:1:1になるように重みづけを行った。
 *肯定群は社会に対する意識をたずねる質問に「とてもそう思う」「まあそう思う」と回答した子ども、否定群は「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」と回答した子ども。
 *幸せ実感は、「自分は今、幸せだ」と「自分は将来、幸せになれる」について「とてもそう思う」4点~「まったくそう思わない」1点として合算し、8~7点を「幸せ高群」、6点を「幸せ中群」、5~2点を「幸せ低群」とした。「幸せ低群」の数値は省略した。相関係数は、幸せ実感得点とそれぞれの会話との関連をみた。**p<0.01。
 *東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2023年。



⑱生活時間（経年比較）

携帯・スマホ使用時間は増加し、学習時間は減少している

●生活時間【2017・20・23年データ】



*「睡眠時間」は就寝時間と起床時間の差から算出(単位:時間)、「携帯・スマホ使用時間」と「学習時間」は、「しない」を0分、「5分むを5分…「4時間」を240分、「4時間以上」を300分と換算して平均値を算出(単位:分)。「学習時間」は、宿題の時間、宿題以外の家庭学習の時間、学習塾の時間(1日あたりに換算)の合計。

*小4～高3生の子どもの回答。子ども全体の数値は、小4～6生:中学生:高校生=1:1:1になるように重みづけを行った。

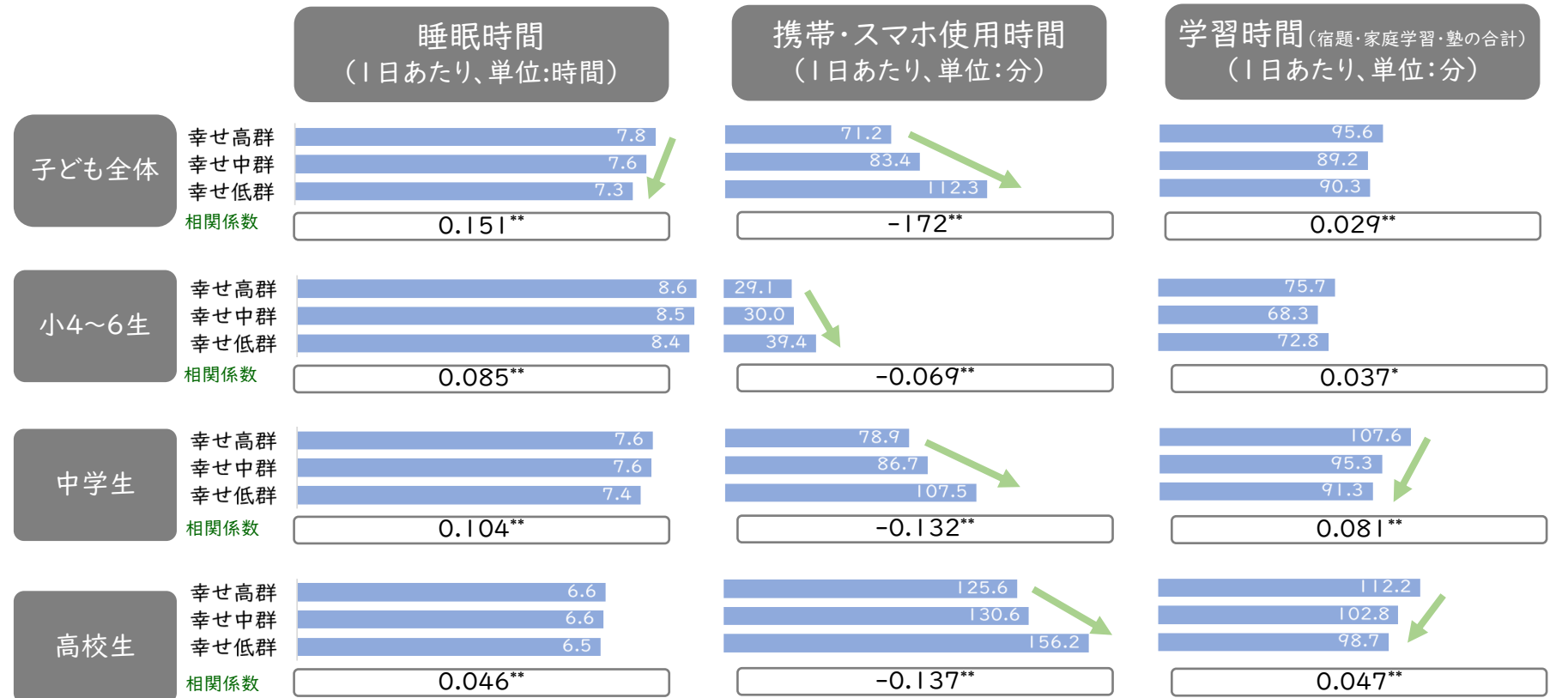
*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2017・20・23年。



⑳ 幸せ実感と生活時間の関連

幸せ高群は睡眠時間が長く、携帯・スマホ使用時間が短い

●生活時間（幸せ実感別）【2023年データ】



*「睡眠時間」は就寝時間と起床時間の差から算出(単位:時間)。「携帯・スマホ使用時間」と「学習時間」は、「しない」を0分、「5分を5分…4時間」を240分、「4時間以上」を300分と換算して平均値を算出(単位:分)。「学習時間」は、宿題の時間、宿題以外の家庭学習の時間、学習塾の時間(1日あたりに換算)の合計。

*小4~高3生の子どもの回答。子ども全体の数値は、小4~6生:中学生:高校生=1:1:1になるように重みづけを行った。

*幸せ実感は、「自分は今、幸せだ」と「自分は将来、幸せになれる」について「とてもそう思う」4点~「まったくそう思わない」1点として合算し、8~7点を「幸せ高群」、6点を「幸せ中群」、5~2点を「幸せ低群」とした。「幸せ低群」の数値は省略した。相関係数は、幸せ実感得点とそれぞれの会話との関連をみた。**p<0.01、*p<0.05。

*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2023年。

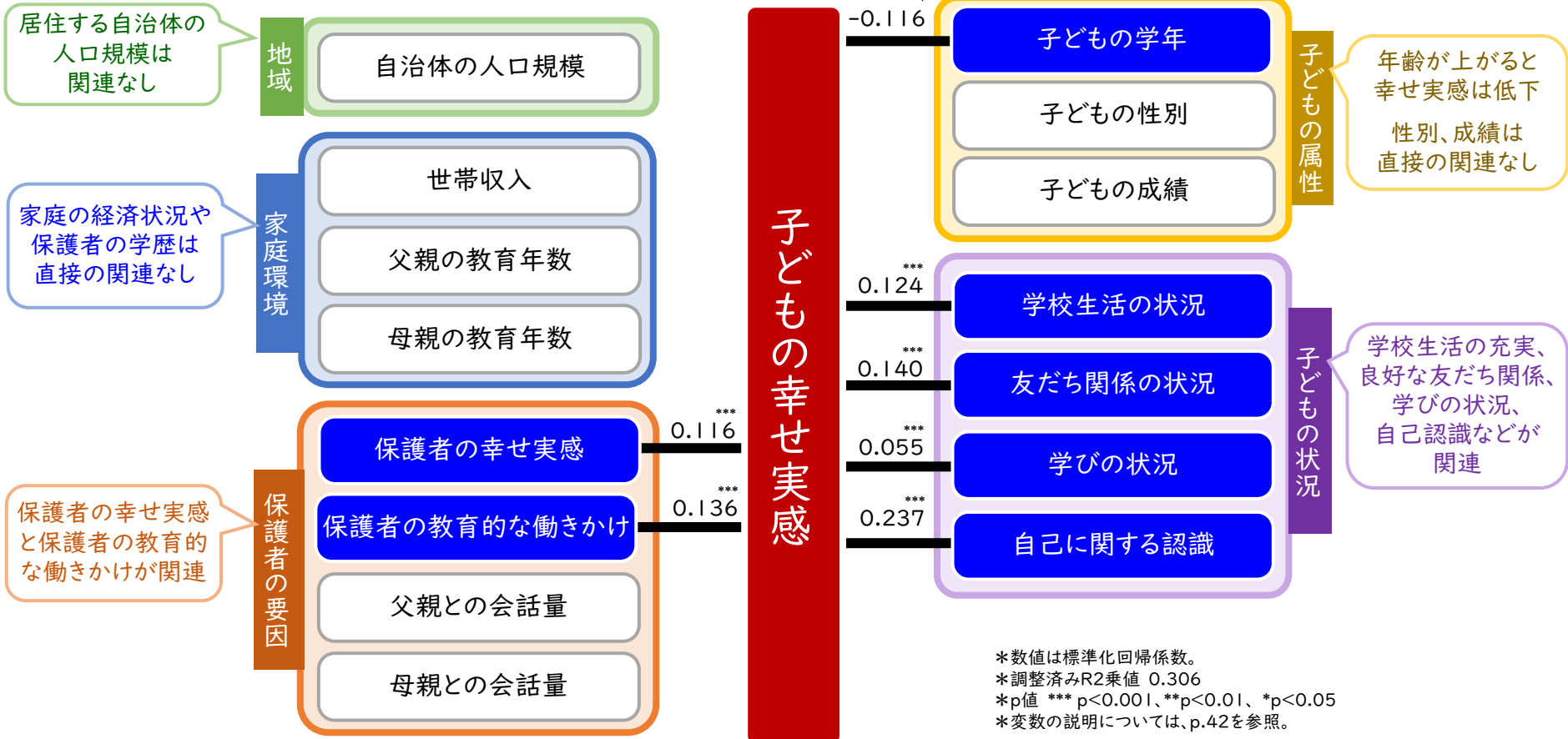


①子どもの「幸せ実感」の規定要因分析

子ども自身の特性や保護者の影響が、子どもの幸せ実感に影響

●子どもの幸せ実感の規定要因分析（重回帰分析）【2023年データ】

※ 関連がみられなかった要因 関連がみられた要因





【参考】重回帰分析の結果

●子どもの幸せ実感に関連する要因（重回帰分析）【2023年データ】

			非標準化係数		標準化係数	t 値	有意確率	B の 95.0% 信頼区間		共線性の統計量	
			B	標準誤差	ベータ			下限	上限	許容度	VIF
(定数)			0.724	0.231		3.138	0.002	0.272	1.176		
独立変数	地域	自治体の人口規模	-0.021	0.015	-0.016	-1.357	0.175	-0.051	0.009	0.962	1.039
	家庭環境	世帯年収	-0.006	0.004	-0.017	-1.346	0.178	-0.014	0.003	0.821	1.218
		父親の教育年数	0.007	0.008	0.011	0.809	0.419	-0.010	0.023	0.751	1.332
		母親の教育年数	-0.010	0.010	-0.012	-0.905	0.366	-0.030	0.011	0.787	1.271
	保護者の要因	保護者の幸せ実感	0.127	0.013	0.116	9.758	0.000	0.102	0.153	0.942	1.062
		保護者の教育的な働きかけ	0.054	0.006	0.136	9.464	0.000	0.042	0.065	0.646	1.547
		父親との会話量	0.004	0.005	0.012	0.875	0.381	-0.005	0.014	0.702	1.424
		母親との会話量	0.011	0.006	0.026	1.857	0.063	-0.001	0.023	0.664	1.505
	子どもの属性	子どもの学年	-0.015	0.007	-0.026	-2.052	0.040	-0.030	-0.001	0.823	1.215
		子どもの性別	0.034	0.031	0.013	1.120	0.263	-0.026	0.094	0.967	1.034
		子どもの成績	0.004	0.017	0.003	0.234	0.815	-0.030	0.038	0.743	1.346
	子どもの状況	学校生活の状況	0.055	0.006	0.124	9.255	0.000	0.043	0.067	0.746	1.340
		友達関係の状況	0.045	0.005	0.140	9.659	0.000	0.036	0.054	0.635	1.576
		学びの状況	0.024	0.007	0.055	3.619	0.000	0.011	0.037	0.580	1.724
		自己に関する認識	0.060	0.004	0.237	14.512	0.000	0.052	0.068	0.502	1.992

従属変数は「子どもの幸せ実感」
調整済みR2乗値:0.306



【参考】重回帰分析の変数の説明

●記述統計量【2023年データ】

カテゴリー	変数名	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	変数の説明	
従属変数	子どもの幸せ実感	5187	2	8	6.175	1.303	「自分は今、幸せだ」と「自分は将来、幸せになれる」の2項目について、「とてもそう思う」4点～「まったくそう思わない」1点として数値を合算。	
独立変数	地域	自治体の人口規模	5187	1	4	2.826	0.999	「5万人未満」1、「5～15万人未満」2、「15万人以上」3、「政令市・特別区」4。
	家庭環境	世帯年収	5187	1.5	22.5	8.600	3.908	「200万円未満」1.5、「200～300万円未満」2.5……「1,500～2,000万円未満」7.5、「2000万円以上」22.5のように100万円単位で数値に換算。
		父親の教育年数	5187	9	18	14.835	2.082	「中学まで」9、「高校まで」12、「短期大学まで」「専門学校まで」14、「四年制大学まで」16、「大学院まで」18に換算。
		母親の教育年数	5187	9	18	14.510	1.619	同上。
	保護者の要因	保護者の幸せ実感	5187	2	8	6.243	1.191	「自分は今、幸せだ」と「自分は将来、幸せになれる」の2項目について、「とてもそう思う」4～「まったくそう思わない」1として数値を合算。
		保護者の教育的な働きかけ	5187	5	20	13.203	3.316	「勉強の面白さを教えてくれる」「勉強の内容を教えてくれる」「勉強の意味や大切さを教えてくれる」「勉強で悩んだときに相談にのってくれる」「結果が悪くても努力したことを認めてくれる」の5項目について、「とてもあてはまる」4～「まったくあてはまらない」1として数値を合算。 $\alpha=0.812$
		父親との会話量	5187	5	20	12.610	3.679	「学校での出来事」「友だちのこと」「勉強や成績のこと」「将来や進路のこと」「社会のニュース」の5項目について、「よく話す」4～「まったく話さない」1として数値を合算。 $\alpha=0.839$
		母親との会話量	5187	5	20	15.612	3.058	同上。 $\alpha=0.801$
	子どもの属性	子どもの学年	5187	10	18	14.301	2.248	「小4生」10～「高3生」18に換算。
		子どもの性別	5187	0	1	0.507	0.500	「女子」1、「男子」0とし、「その他」は欠損値とした。
		子どもの成績	5187	1	5	3.458	1.010	国語、算数・数学、理科、社会、英語の5教科（小4のみ英語を除く4教科）の成績の自己評価について、「下のほう」1、「真ん中より下」2、「真ん中くらい」3、「真ん中より上」4、「上のほう」5として合計し、教科数を除した。
	子どもの状況	学校生活の状況	5187	5	20	15.698	2.928	「授業が楽しい」「友だちと過ごすのが楽しい」「尊敬できる先生がいる」「自分のクラスが好きだ」「自分の学校が好きだ」の5項目について、「とてもあてはまる」4～「まったくあてはまらない」1として数値を合算。 $\alpha=0.813$
友だち関係の状況		5187	8	32	23.664	4.074	「友だちと一緒にいるのが楽しい」「興味や考え方が違う人とも仲良くする」「悩み事を相談しあう友だちがいる」「友だちが悪いことをしたときに注意する」「だれとでもすぐに友だちになる」「勉強やスポーツでライバルの友だちがいる」「真面目な話ができる友だちがいる」「友だちがたくさんほしい」の8項目について、「とてもあてはまる」4～「まったくあてはまらない」1として数値を合算。 $\alpha=0.758$	
学びの状況		5187	5	20	12.268	2.984	「勉強が好きか」について「とても好き」4～「まったく好きではない」1、「遊ぶときは遊び、勉強するときは集中して勉強する」「自分に合った勉強のやり方を工夫する」について「よくする」4～「まったくしない」1、「勉強しようという気持ちがない」「上手な勉強のしかたがわからない」（逆転項目）について「まったくあてはまらない」4～「とてもあてはまる」1として数値を合算。 $\alpha=0.739$	
自己に関する認識		5187	11	44	30.461	5.142	「自分でできることは自分でする」「一度決めたことは最後までやりとげる」「自分に自信がある」「難しいことや新しいことにいつも挑戦したい」「将来の目標がはっきりしている」「興味を持ったことに打ち込む」「人に言われなくても自分から勉強する」「予定や計画を立てて考えるのが好きだ」「人に役に立つことはうれしい」「自分の良いところが何かを言うことができる」「社会の出来事やニュースに関心が強い」の11項目について、「とてもあてはまる」4～「まったくあてはまらない」1として数値を合算。 $\alpha=0.799$	

ベネッセ教育総合研究所